

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年5月27日

【事業年度】 第52期（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）

【会社名】 株式会社市進ホールディングス

【英訳名】 ICHISHIN HOLDINGS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 福住 一彦

【本店の所在の場所】 千葉県市川市八幡二丁目3番11号

【電話番号】 047(335)2840（代表）

【事務連絡者氏名】 取締役統括本部本部長 尾和 保弘

【最寄りの連絡場所】 千葉県市川市八幡二丁目3番11号

【電話番号】 047(335)2840（代表）

【事務連絡者氏名】 取締役統括本部本部長 尾和 保弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	2022年 2月	2023年 2月	2024年 2月	2025年 2月	2026年 2月
売上高 (千円)	17,318,138	17,292,145	17,948,429	18,459,134	18,653,429
経常利益 (千円)	693,329	734,599	761,951	719,372	752,220
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	421,563	365,898	363,260	317,294	628,551
包括利益 (千円)	505,847	407,885	544,534	451,471	455,113
純資産額 (千円)	2,068,888	2,297,799	2,735,941	2,197,301	2,521,610
総資産額 (千円)	12,705,940	12,417,828	13,009,539	13,647,568	13,402,839
1株当たり純資産額 (円)	202.72	228.11	271.17	263.83	306.53
1株当たり当期純利益 (円)	41.72	36.19	36.55	35.84	77.27
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	16.2	18.3	20.7	15.7	18.4
自己資本利益率 (%)	23.0	16.9	14.6	13.1	27.2
株価収益率 (倍)	10.7	12.8	13.8	11.9	5.6
営業活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	1,610,408	855,567	657,906	1,189,440	1,365,164
投資活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	481,627	724,909	262,595	763,181	280,488
財務活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	276,776	609,356	225,096	356,843	926,598
現金及び現金同等物の期末残 高 (千円)	3,640,224	3,164,607	3,337,525	3,406,577	4,127,234
従業員数 (人)	899	928	949	942	924
(外、平均臨時雇用者数) (人)	(3,564)	(3,386)	(3,280)	(3,365)	(3,355)

(注) 1. 第48期以降の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第49期の期首から適用しており、第49期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

3. 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第52期の期首から適用しており、第51期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。なお、2022年改正会計基準については第20 - 3項ただし書きに定める経過的な取扱いを適用し、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)については第65 - 2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いを適用しております。この結果、第52期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	2022年 2 月	2023年 2 月	2024年 2 月	2025年 2 月	2026年 2 月
売上高 (千円)	2,200,485	2,136,556	2,078,877	2,254,709	2,273,368
経常利益 (千円)	54,941	91,226	65,716	123,954	48,862
当期純利益 (千円)	129,666	63,544	120,042	334,586	237,595
資本金 (千円)	1,476,237	1,476,237	1,476,237	1,476,237	1,476,237
発行済株式総数 (株)	10,604,888	10,604,888	10,604,888	10,604,888	10,604,888
純資産額 (千円)	2,967,856	2,891,959	3,045,988	2,518,490	2,334,297
総資産額 (千円)	11,936,285	11,228,345	12,186,179	12,067,181	11,094,204
1株当たり純資産額 (円)	292.99	289.99	306.00	309.24	290.30
1株当たり配当額 (円)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
(1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	12.83	6.29	12.08	37.79	29.21
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	24.9	25.8	25.0	20.9	21.0
自己資本利益率 (%)	4.5	2.2	4.0	12.0	9.8
株価収益率 (倍)	34.9	73.7	41.8	11.2	14.8
配当性向 (%)	77.9	159.1	82.8	26.5	34.2
従業員数 (人)	74	79	65	60	56
(外、平均臨時雇用者数) (人)	(35)	(31)	(18)	(31)	(43)
株主総利回り (%)	126.87	133.80	148.20	128.81	133.52
(比較指標：配当込みTOPIX) (%)	(103.36)	(112.16)	(154.38)	(158.39)	(238.36)
最高株価 (円)	544	515	561	520	475
最低株価 (円)	340	403	446	422	374

(注) 1. 第48期以降の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 最高株価及び最低株価は、2022年4月4日以降は東京証券取引所スタンダード市場におけるものであり、2022年4月3日以前は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第49期の期首から適用しており、第49期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

4. 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第52期の期首から適用しており、第51期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。なお、2022年改正会計基準については第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱いを適用しております。この結果、第52期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## 2【沿革】

創業者であります梅田威男は、1965年5月、個人経営として、当社の前身「真間進学会」を千葉県市川市真間3丁目13番12号に創業、中学・高校受験指導を開始いたしました。

1970年12月、本部を市川市須和田1丁目20番3号に移転、「市川進学教室」と改称しております。その後の主な変遷は、次のとおりであります。

年月	概要
1975年6月	千葉県市川市須和田2丁目20番3号に株式会社市川進学教室を設立。
1979年2月	千葉県市川市八幡4丁目5番10号に株式会社市進教育センターを設立。現役高校生を対象とした学習指導を目的として「市進予備校」を創設。
1981年11月	経営資源の効率的な運用を図るため株式会社市進教育センターに合併。
1984年3月	千葉県千葉市花園に教材研究と教務能力開発のため総合研究所（教務室・研修開発室）を設置。
1984年10月	コーポレートアイデンティティを導入。株式会社市進に商号変更し、「市川進学教室」を「市進学院」に名称変更。シンボルマーク（ウイングマーク）、イメージリードカラー（マリンプール）を設定。
1985年5月	社員持株会スタート。
1988年4月	統合OAシステム本稼動。コンピュータによる全拠点オンライン完成。
1989年3月	市進学院、市進予備校の首都圏展開を開始。
1990年6月	創立25周年記念式典施行。
1995年3月	市進チューターバンク設置。個別指導事業を開始。
1996年7月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
1998年10月	千葉県市川市に個太郎塾行徳駅前教室を開設。個別指導塾分野に参入。
1999年5月	東京都新宿区百人町（現在東京都文京区に移転）に個別指導教育を主業務とする子会社株式会社個学舎（現 連結子会社）を設立。
1999年9月	市進チューターバンク及び個太郎塾を株式会社個学舎に営業譲渡。
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
2006年3月	市進予備校において映像配信型授業「ウイングネット」を開始。映像授業事業を開始。
2007年3月	個太郎塾FC第1号教室が営業を開始。FC事業を開始。
2007年6月	映像配信授業「ウイングネット」の外部販売を開始。
2008年5月	株式会社ウィザスと業務提携契約を締結。
2008年12月	ウイングネット新商品「ベーシック・ウイング」の配信を開始。
2010年3月	ホールディングス経営体制へ移行することにより、株式会社市進ホールディングスに商号変更。
2010年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（現 東京証券取引所スタンダード市場）に株式を上場。
2010年5月	映像制作会社であるジャパンライム株式会社の株式100%を取得し、子会社とする。
2011年6月	特例子会社である株式会社市進アシストを設立。
2011年9月	株式会社江戸カルチャーセンター及び株式会社桐杏学園（現 株式会社市進ラボ）の株式100%を取得し、子会社とする。日本語学校運営を開始、小学校受験・幼児教育分野に進出。
2011年11月	楽ちん株式会社（現 株式会社いちしんウエルフェア）の株式100%を取得し、子会社とし、介護福祉事業サービスに参入。 株式会社学研ホールディングスと業務資本提携契約を締結。
2012年3月	株式会社茨進（現 株式会社茨進ホールディングス）の株式100%を取得し、子会社とする。

年月	概要
2013年 2月	香港に海外現地法人「香港市進有限公司」を設立。
2013年 7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に株式を上場。
2013年12月	学研グループとの共同出資により、株式会社GIビレッジを設立。東京都港区にて主に幼児保育・学童保育を行う「クランテテ三田」の運営を開始。
2015年 4月	民間学童保育施設「ナナカラ」の運営開始。
2015年 5月	創立50周年を迎える。
2015年 8月	オールイングリッシュ保育園「みらいえインターナショナルスクール」を事業譲受。
2016年 5月	香港の海外現地法人「香港市進有限公司」が「新譽有限公司」を子会社化。
2017年 2月	東京都と株式会社学研ホールディングス等と協定を締結し、体験型英語学習施設を提供する株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAYを共同出資により設立。
2017年 2月	一般社団法人日本経済団体連合会（経団連）入会。
2017年 7月	柏市不登校支援事業、四街道市ひとり親家庭等学習支援事業を受託。
2017年12月	株式会社時の生産物（現 株式会社いちしんウエルフェア）の株式100%を取得し、子会社とする。
2018年 3月	株式会社市進ラボを設立。
2018年 3月	パス・トラベル株式会社（現 株式会社アイウイングトラベル）の株式100%を取得し、子会社とする。
2019年 1月	株式会社NPS成田予備校を事業譲受。
2019年12月	当社の子会社、株式会社茨進（現 株式会社茨進ホールディングス）が有限会社敬愛の株式を100%取得し、子会社とする。
2020年 7月	当社の子会社、株式会社茨進（現 株式会社茨進ホールディングス）が有限会社典和進学ゼミナールの株式100%を取得し、子会社とする。
2020年 7月	株式会社プレジャー・コム（現 株式会社いちしんウエルフェア）の株式100%を取得し、子会社とする。
2020年 7月	株式会社ゆいの株式100%を取得し、子会社とする。
2021年 4月	小学1年生・2年生・3年生向けオンライン教室パンセフロンティアを開始。
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、JASDAQスタンダードからスタンダード市場へ移行。
2022年 9月	紙ふうせん株式会社（現 株式会社いちしんウエルフェア）の株式100%を取得し、子会社とする。
2023年 3月	株式会社市進コンサルティングを設立。
2023年 3月	株式会社ゆいにて障がい者グループホーム「りんく日吉」を開所。
2023年 4月	トップケアサイエンス有限会社の株式100%を取得し、子会社とする。
2023年 7月	株式会社学研ホールディングスの連結子会社となる。
2024年 1月	株式会社茨進準備会社（現 株式会社茨進）を設立。
2024年 3月	株式会社茨進から株式会社茨進ホールディングスへ商号変更。茨城地区ホールディングス体制化。
2024年 3月	当社の子会社、株式会社茨進ホールディングスが株式会社ライブコアサポートの株式を100%取得し、子会社とする。
2024年 7月	有限会社錦秋会（現 株式会社いちしんウエルフェアちば）の株式100%取得し、子会社とする。
2024年 9月	当社の子会社、株式会社市進が有限会社龍馬進学研究会の株式を100%取得し、子会社とする。
2024年 9月	株式会社市進ケアサービスが株式会社時の生産物、株式会社プレジャー・コム、紙ふうせん株式会社を吸収合併。同日付で株式会社市進ケアサービスから株式会社いちしんウエルフェアへ商号変更。
2025年 3月	千葉県市川市にIchishinデジタルベースを開設。小学校低学年向け映像配信授業を強化。
2025年12月	株式会社茨進の本部を茨城県つくば市へ移転。

### 3【事業の内容】

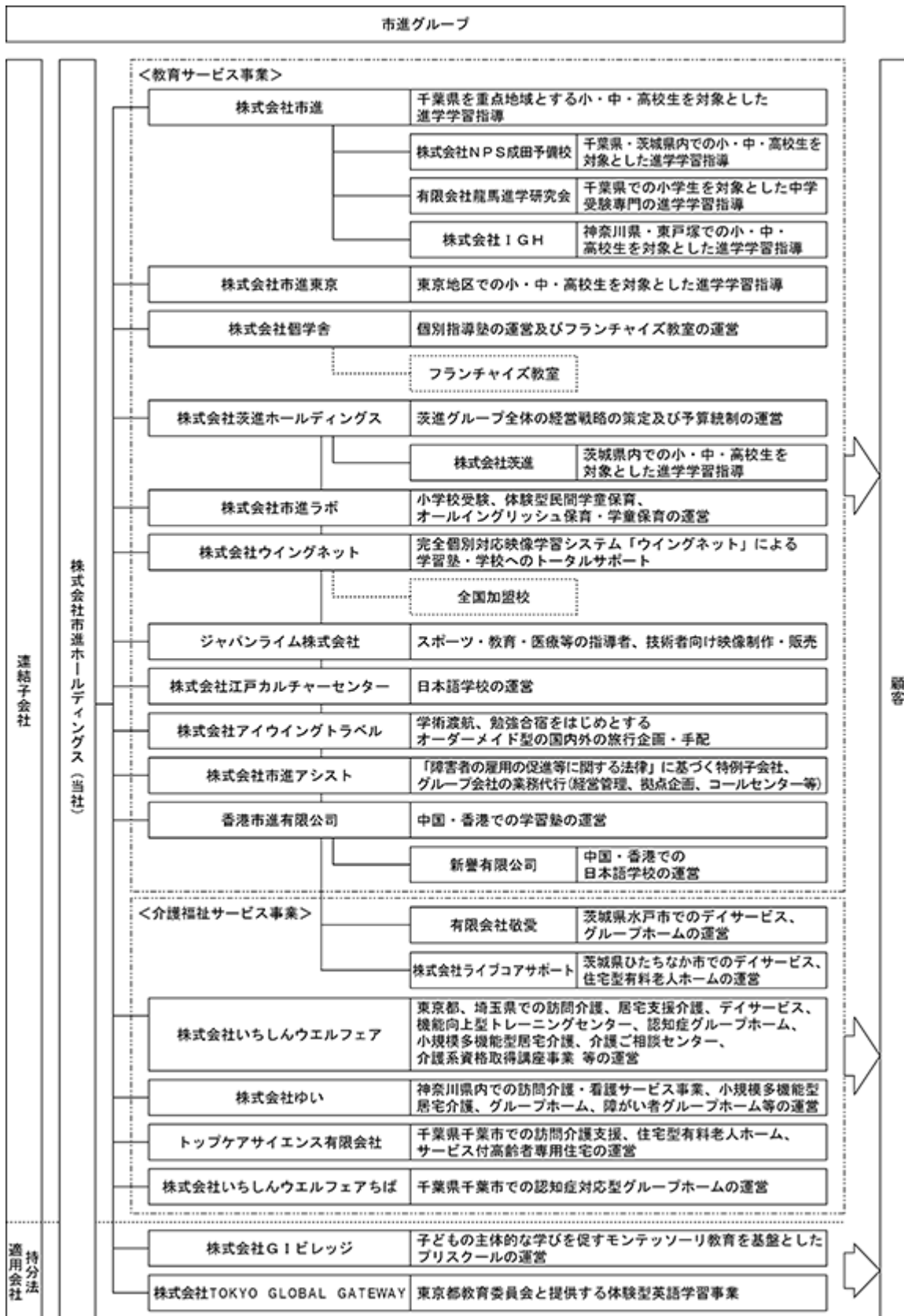
当社グループは、教育サービス事業、介護福祉サービス事業の2つを主要なビジネスセグメントとして事業展開を行っております。教育サービス事業におきましては、小学生から高校生までを対象とした「市進学院」「個太郎塾」「茨進」等の学習塾の他、小学校受験の「桐杏学園」、学童保育の「ナナカラ」の運営、また映像授業コンテンツ「ウイングネット」による塾事業のトータルサポート等の教育事業を行っております。介護福祉サービス事業におきましては、訪問介護、居宅支援介護、デイサービス、認知症グループホーム、小規模多機能型居宅介護、障がい者総合支援、有料老人ホーム、介護研修等の様々な介護サービスを運営しております。

なお、当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当しており、これにより、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

事業区分	事業内容	主要会社
教育サービス事業	小学生から高校生までを対象とした「市進学院」「個太郎塾」「茨進」等の学習塾の運営、小学校受験の「桐杏学園」、学童保育の「ナナカラ」、日本語学校「江戸カルチャーセンター」の運営、映像授業コンテンツ「ウイングネット」による塾事業のトータルサポート等	[連結子会社] (株)市進 (株)市進東京 (株)N P S 成田予備校 (有)龍馬進学研究会 (株)個学舎 (株)茨進ホールディングス (株)茨進 (株)市進ラボ (株)ウイングネット ジャパンライム(株) (株)アイウイングトラベル (株)江戸カルチャーセンター (株)市進コンサルティング
介護福祉サービス事業	訪問介護、居宅介護支援、デイサービス、認知症グループホーム、小規模多機能型居宅介護、サービス付高齢者専用住宅、有料老人ホーム、障がい者総合支援、介護研修等、様々な介護サービスの運営	[連結子会社] (有)敬愛 (株)ライブコアサポート (株)いちしんウエルフェア (株)ゆい トップケアサイエンス(有) (株)いちしんウエルフェアちば

当社の企業集団の業務の関連を図示すると次のとおりであります。



## 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は 出資金 (千円)	主要な事業の 内容	議決権の所 有(被所 有)割合 (%)	関係内容
(親会社) 株式会社学研ホールディングス (注)4	東京都品川区	19,817,453	教育サービス 事業	(49.7)	業務・資本提携、 役員の兼任
(連結子会社) 株式会社市進(注)3、5	東京都文京区	10,000	教育サービス 事業	100.0	業務支援、管理業務 の提供、役員の兼任
株式会社市進東京	東京都文京区	10,000	教育サービス 事業	100.0	業務支援、 管理業務の提供
株式会社NPS成田予備校(注)2	千葉県市川市	5,000	教育サービス 事業	100.0 [100.0]	業務支援、 管理業務の提供
有限会社龍馬進学研究会(注)2	千葉県船橋市	3,000	教育サービス 事業	100.0 [100.0]	業務支援、 管理業務の提供
株式会社個学舎	東京都文京区	10,000	教育サービス 事業	100.0	業務支援、 管理業務の提供
株式会社茨進ホールディングス	茨城県土浦市	20,000	教育サービス 事業	100.0	業務支援、管理業務 の提供
株式会社茨進(注)2、3、5	茨城県 つくば市	10,000	教育サービス 事業	100.0 [100.0]	業務支援、 管理業務の提供
有限会社敬愛(注)2	茨城県水戸市	3,000	介護福祉 サービス事業	100.0 [100.0]	業務支援、 管理業務の提供
株式会社ライブコアサポート (注)2	茨城県 ひたちなか市	800	介護福祉 サービス事業	100.0 [100.0]	業務支援、 管理業務の提供
株式会社市進ラボ	千葉県市川市	5,000	教育サービス 事業	100.0	業務支援、管理業務 の提供、役員の兼任
株式会社ウイングネット	東京都文京区	10,000	教育サービス 事業	100.0	業務支援、管理業務 の提供、役員の兼任
ジャパンライム株式会社	東京都文京区	10,000	教育サービス 事業	100.0	業務支援、管理業務 の提供、役員の兼任
株式会社アイウイングトラベル	東京都文京区	40,371	教育サービス 事業	100.0	業務支援、管理業務 の提供、役員の兼任
株式会社江戸カルチャーセンター	東京都港区	20,000	教育サービス 事業	100.0	業務支援、管理業務 の提供
株式会社いちしんウエルフェア	東京都文京区	20,000	介護福祉 サービス事業	100.0	業務支援、管理業務 の提供、役員の兼任
株式会社ゆい(注)3	神奈川県 横浜市	40,000	介護福祉 サービス事業	100.0	業務支援、管理業務 の提供、役員の兼任
トップケアサイエンス有限会社	千葉県千葉市	3,000	介護福祉 サービス事業	100.0	業務支援、 管理業務の提供
株式会社いちしんウエルフェアちば (注)6	千葉県千葉市	3,000	介護福祉 サービス事業	100.0	業務支援、 管理業務の提供
株式会社市進アシスト	千葉県市川市	10,000	教育サービス 事業	100.0	業務支援、管理業務 の提供、役員の兼任
株式会社IGH(注)2	神奈川県 横浜市	5,000	教育サービス 事業	51.0 [51.0]	業務支援、 管理業務の提供

名称	住所	資本金 又は 出資金 (千円)	主要な事業の 内容	議決権の所有(被所有)割合 (%)	関係内容
株式会社市進コンサルティング	東京都文京区	3,000	教育サービス事業	51.0	業務支援、管理業務の提供、役員の兼任
ICHISHIN INDIA CONSULTANT PRIVATE LIMITED(注)2	Gujarat, INDIA	35,735	教育サービス事業	100.0 〔1.0〕	業務支援、管理業務の提供
香港市進有限公司	香港九龍	19,800	教育サービス事業	100.0	業務支援、管理業務の提供
新譽有限公司(注)2	香港九龍	7,200	教育サービス事業	100.0 〔100.0〕	業務支援、管理業務の提供
(持分法適用関連会社) 株式会社GIビレッジ	東京都港区	100,000	教育サービス事業	50.0	業務支援
株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY	東京都江東区	100,000	教育サービス事業	35.0	業務支援、役員の兼任

(注)1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 「議決権の所有(被所有)割合」欄の〔内書〕は間接所有であります。

3. 特定子会社に該当しております。

4. 有価証券報告書の提出会社であります。

5. 株式会社市進及び株式会社茨進は、売上高(連結会社相互間の内部売上高除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

項目名	株式会社市進	株式会社茨進
(1) 売上高	6,399,754千円	3,247,119千円
(2) 経常利益	66,913千円	109,140千円
(3) 当期純利益又は 当期純損失( )	13,216千円	36,055千円
(4) 純資産額	14,596千円	93,403千円
(5) 総資産額	1,268,661千円	933,642千円

6. 2025年3月3日付にて有限会社錦秋会は株式会社いちしんウエルフェアちばへと商号を変更しております。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2026年2月28日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
教育サービス事業	679 (3,011)
介護福祉サービス事業	245 (344)
合計	924 (3,355)

- (注) 1. 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。  
2. 従業員数欄の(外書)は、臨時雇用者の期中平均の人員であります。

### (2) 提出会社の状況

2026年2月28日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
56 (43)	45.0	18.7	5,531,371

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であります。  
2. 提出会社の従業員は「教育サービス事業」セグメントに所属しております。  
3. 従業員数欄の(外書)は、臨時雇用者の期中平均の人員であります。  
4. 平均年間給与は、正社員の平均であり賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

当社の連結子会社である株式会社市進において市進学院の教務系嘱託社員数名を構成員とする全国一般労働組合市進学院分会が、1996年7月に結成されております。

また、当社の連結子会社である株式会社市進において市進学院の教務系嘱託社員数名を構成員とする全国一般東京東部労組市進支部が、2012年12月に結成されており、労使間の諸問題につき団体交渉を継続しております。団体交渉においては、誠意を持って対応し、健全かつ安定的な労使関係の構築を目指して努力しております。

なお、正社員及び事務社員の労使関係においては、従業員の親睦団体であります「社員会」を中心にコミュニケーションを図っており、円滑に推移しております。

### (4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

#### 提出会社

当社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(2015年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(1991年法律第76号)の規定による公表義務に基づく公表項目として選択しておらず公表していないため、記載を省略しております。

## 連結子会社

当事業年度					
名称	管理職に占める女性 労働者の割合(%) (注1)	男性労働者の育児 休業取得率(%) (注2)	労働者の男女の 賃金の差異(注1、3、4)		
			全労働者	うち正規雇用 労働者	うちパート・ 有期労働者
株式会社市進	8.8	0.0	56.5	88.4	59.9
株式会社市進ホール ディングス	6.1	50.0	77.9	77.9	73.9
株式会社市進	-	-	78.7	-	78.7

(注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

- 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
- 賃金は性別に関係なく同一の基準を適用しております。賃金差異の理由は、管理職層の男女の人数比率などによるものであります。
- 育児・介護の事情で短時間勤務をしている者や、所定労働時間より短い雇用契約を結んでいる短時間労働者については、月の所定労働時間を1.0とした場合の短時間労働者員の所定労働時間の割合を考慮し、賃金格差を計算しています。
- 上記表における「-」については、対象者がいないことを示しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1)経営方針・経営戦略等

当社グループは「人を創る、ともに創る」をビジョンに掲げ、学びの場、生活支援の場を通じて豊かな人生、笑顔あふれる社会の実現をめざし、教育サービス事業と介護福祉サービス事業を主要なビジネスセグメントとしております。教育サービス事業においては、受験のみに特化した従来型の「学習塾」から領域を拡大し、幼児部門など対象年齢層の拡大、映像授業販売の全国展開など対象地域の拡大、日本語学校の運営、海外事業の展開、教育関係者や受験生を主な対象とした旅行業への参入などによりサービス内容の拡充を図っております。介護福祉サービス事業においては、小規模デイサービスやグループホームの運営、小規模多機能型居宅介護事業、介護職初任者研修等の研修事業も実施するなど、それぞれの事業会社が地域に根差した質の高い介護サービスを提供すべく取り組んでおります。また、教育サービス事業、介護福祉サービス事業ともにM&Aによる事業拡大も積極的に進めております。

幅広い世代かつ広範囲の地域のお客様に対しそれぞれのニーズへの丁寧かつ柔軟な対応、新商品開発によるサービスの拡充などにより企業価値の向上を図ってまいります。

#### (2)経営環境及び優先的に対処すべき課題

教育サービス業界を取り巻く環境は、少子化による学齢人口の減少や教育費の抑制傾向等により依然として厳しい状況が続き、オンライン教育、Webやデジタルを活用した教育サービスや学習支援ツールを利用した新たなサービスの需要が高まり、異業種の新規参入も顕著となってきております。また、介護福祉サービス業界を取り巻く環境としましては、高齢者の人口増加に伴い、介護サービスの需要がますます高まることが予想される一方で、人材確保や介護報酬改定の動きへの適切な対応が重要な課題となっております。いずれの業界でも社会的ニーズや経営環境の変化に対し迅速かつ柔軟な対応力が求められていると考えております。

このような環境のもと、当社グループは「マーケティング」、「イノベーション」、「人材育成」の3つをグループ全体の重点テーマとして設定し、全事業会社の目標達成度合いの指標としては、より具体的な業績評価につながる重要な指標(KPI)を用い、これを職員間で共有しつつ日々の活動を推進しております。さらには、グループ全体の企業価値向上を図るためにも、引き続き、グループ会社間の連携を深めることにも注力してまいります。

## <教育サービス事業>

教育サービス事業におきましては、引き続き、以下を主要なテーマとして取り組んでまいります。

生徒、保護者の皆さまへの丁寧な「1対1対応」

小学校低学年専門教室

難関大学・国公立大学現役合格を目指す高校生のための予備校

BX（ビジネストラנסフォーメーション）によるサービス向上及び業務効率化

人材の採用と育成

生徒、保護者の皆さまへの丁寧な「1対1対応」においては、各教室、各地域で、小学校別、中学校別、高校別に、授業担当者からの定期的な連絡、保護者面談、保護者会を実施し、各人に最適な学びを提供できるよう、取り組んでまいります。

小学校低学年専門教室においては、基礎学力を重視することはもちろんのこと、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった「非認知能力」を育む工夫をこらしたコース設計としております。

難関大学・国公立大学現役合格を目指す高校生のための予備校につきましては、志望校合格から逆算した「現役合格ロードマップ」を作成、運用し、進路指導、スケジュール管理、モチベーションアップ、志望校合格への徹底した学習のめんどろみを行います。高校生の在籍生徒数増加と大学合格率及び大学合格者数の向上を重要課題として引き続き注力してまいります。

BX（ビジネストラנסフォーメーション）によるサービス向上及び業務効率化につきましては、特にAI活用はこれまでにない画期的な学習法・指導法を生む可能性があるため、当社グループもその下地形成や基礎研究を視野に、当社内にグループ事業変革推進本部を設置し、対応してまいります。完全個別対応映像学習システム「ウイングネット」では、小論文講座について、添削の精度を向上すべく、専用に学習させた生成AIシステムを開発し、AIによる対応を開始いたしました。また、生成AIによるチューティングシステムの開発も進めており、2026年秋にリリース予定です。

人材の採用と育成におきまして、採用面では、採用手法・ツールの見直し、内部リクルートの強化などを引き続き実施してまいります。株式会社市進では、企業が貸与機関に直接送金することで従業員の返済を支援する日本学生支援機構の奨学金返還支援制度を導入いたしました。育成面では、年代別セルフ・キャリアドックを実施し、キャリア研修に加え、キャリアコンサルティング面談を実施するなど、従業員に対する「1対1対応」も重要テーマとして取り組んでまいります。

株式会社市進につきまして、授業、家庭学習、フォロータイムを循環させ、確実な学力定着を目指す指導理念を「真・学習の輪」と定義し、第一志望合格を目指すとともに、受験指導を通して自ら考え、自ら取り組む、すなわち「自立」を身につける進学塾として運営してまいります。2026年度は市進創立61年目として、地域の皆さまに感謝をこめて様々な学習イベントを実施いたします。

株式会社個学舎が運営する個別指導の個太郎塾につきまして、小学生の指導充実として、中学受験を目指す生徒には地元の人気私立校に確実に合格する指導を、公立中に進学する生徒には小学校卒業時に英検5級に全員合格する指導を、丁寧に進めてまいります。

株式会社茨進につきまして、本部を土浦市からつくば市に移転いたしました。エリア別の人口動態に合わせ、集団型、自立型、個別型、オンライン型を組み合わせ、サービスの水準を保ち、地域特性に応じたサービスを展開してまいります。

株式会社ウイングネットにつきまして、「ウイングネット」がスタートして20周年を迎えました。加盟校様での生徒の主体的な学びと新たな提供価値の実現に向けて、コンテンツ、システム、サービスの一層の向上を図り、民間教育の次の10年を共に創ってまいります。

<介護福祉サービス事業>

介護福祉サービス事業におきましては、引き続き、以下を主要なテーマとして取り組んでまいります。

ご利用者、ご入居者、ご家族への丁寧な「1対1対応」による顧客満足度の向上

地域のニーズに応じたサービス内容の検討と対応

介護保険制度改正への迅速かつ適正な対応

M&Aの推進によるサービス対象地域の拡大と有資格者集団の獲得

人材の採用と育成

介護福祉サービス事業においては、人材の採用と育成が最重要課題となっております。この点につきまして、「グループ介護事業推進本部」を設置し、当社グループ介護事業の中核となる人材の育成を進めております。グループ内の介護事業会社による合同研修も定期的を実施し、専門知識や介護ノウハウの共有及びグループ内の人材交流を推進し、人材の活性化と定着を図ります。また、グループ内の研修部門の積極活用や資格取得支援制度の充実にも注力し、地域のニーズに応じたきめ細かなサービスの提供、高い顧客満足度を実現し、さらなる業績向上に努めてまいります。当面の目標としましては、介護福祉サービス事業の合計売上高がグループ全体の20%となることを目指しております。

株式会社いちしんウエルフェアにつきまして、東京都において、デイサービス事業から訪問介護事業へのシフトを進めており、地域包括ケアの一環として在宅介護ニーズに対応してまいります。

株式会社ゆいにつきまして、2026年1月に3施設目となる障がい者グループホームを開所いたしました。ご利用者様の状態の変化やご家族のご要望などに合わせた丁寧な運営をし、障がい福祉サービスの分野をより拡大させてまいります。

## 2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1)ガバナンス

当社グループは、変化の激しい経営環境のもと、企業競争力を強化しつつ企業価値の継続的な向上を図り、株主・顧客・従業員の利益の最大化を実現するため、経営の健全性、透明性、迅速性を高めていくとともに、法令遵守を徹底していくことをコーポレート・ガバナンスの基本方針としております。

そのため、法令順守に基づく企業倫理の確立、リスクマネジメントの強化、監査体制の充実、正確かつ迅速なディスクロージャーを図り、コーポレート・ガバナンスの構築・維持に努めております。

また、当社では社員行動規範において、組織目標5項目を掲げております。

<組織目標5項目>

- 1．教育水準の向上という社会からの信託に応え、社会貢献のための自負を持って行動する。
- 2．常に生徒・保護者・顧客の立場に立ち、顧客満足の向上を実現する。
- 3．会社発展の原資を確保・増大する為の施策を実行する。
- 4．社員一人ひとりの自己実現を達成する。
- 5．継続企業としてのさらなる発展を追求する。

コーポレートガバナンスの維持・強化を図る体制としましては、取締役会と監査役会制度を設け、この2つの機関が中心となる体制を構築しております。取締役会は経営方針、その他経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行状況を監督する機関として定期的開催しております。また、経営会議を月数回開催し、社内各部門の業務執行状況等を共有し、課題や問題点を把握するとともに、経営上の必要事項の意思決定を行っております。監査役は3名を選任しております。監査役の機能強化に向けた取組状況といたしましては、常勤監査役は社内の重要会議出席、各会議体の議事録閲覧等により、社内業務執行状況の課題や問題点を随時把握し、監査役間で随時に意見交換を行うとともに、監査役相互の情報共有、効率的な監査に資する体制としております。また監査役は取締役会に出席し、取締役の職務執行状況につき監視を行っております。

監査役監査を支える人材・体制の確保状況につきましては、内部監査部門であるグループ監査部が、業務全般に渡り年間業務計画に基づき、訪問監査・書類監査を実施し、問題点や今後の課題を経営会議および代表取締役へ報告しております。なお、会計処理に関する重要な課題その他については、監査役会及びグループ監査部は、会計監査人と認識を共通にするべく、適宜、三者合同での会議や打合せを実施し、相互に意見交換を行い、連携を図っております。

会計監査につきましては、監査法人の監査を受け、会計における適正性を確保しております。また内部統制の整備・運用・評価についても随時助言を受けております。

当社は、取締役により的確な意思決定と迅速な業務執行を行い、監査役により適正な監査及び監視を可能とする経営体制を構築するため、現状のコーポレートガバナンス体制を選択しております。

## (2)リスク管理

当社グループでは、長期的な企業活動の継続、企業価値の向上のため、リスク管理体制の基礎として管理規定を定め、危機管理委員会を編成しております。危機管理委員会は定期的に開催され、リスクの対処法、防止策など、リスクに関する最新の情報を共有し、リスクへの備えに努めております。なお、万一不測の事態が生じた場合には、代表取締役を本部長とする対策本部を設置し、顧問弁護士等を含めた対策チームが組織され、損害の拡大防止と、被害を最小限に止める体制を整えております。また、情報セキュリティにつきましては、当社において、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）に関する国際規格「ISO27001」を取得しております。当社では、情報セキュリティ会議を毎月開催し、情報セキュリティに関する最新情報の共有を図り、情報の機密性・完全性・可用性をバランスよくマネジメントできるよう、対策を強化しております。

## (3)人的資本に関する戦略

### 戦略

当社グループは「人を創る、ともに創る」をビジョンに掲げ、学びの場、生活支援の場を通じて豊かな人生、笑顔あふれる社会の実現をめざし、教育サービス事業と介護福祉サービス事業を主要なビジネスセグメントとしております。

また、「マーケティング」、「イノベーション」、「人材育成」の3つをグループ全体の重点テーマとして設定し、全事業会社の目標達成度合いの指標としては、より具体的な業績評価につながる重要な指標(KPI)を用い、これを職員間で共有しつつ日々の活動を推進しております。

多様性の確保に関しましては、採用活動及び中核人材への登用において、年齢・性別・国籍などの属性情報を問うことなく、新卒・中途採用などの採用方法を問わず、潜在能力の高い人材を求め、採用・登用を検討・実施しております。また、特例子会社である株式会社市進アシストにおいては障がい者雇用を推進し、障がい者が安心して就労できる環境を整えております。高年齢者の活用も積極的に推進しております。

社内環境整備に関しましては、2022年度から、市進ホールディングス内にHRD（Human Resource Development）本部を新たに設置いたしました。同部署では、「市進グループで働く一人ひとりが主体的に培った自らの力に誇りと自信を持ち、生き生きと活躍し続ける」という理念のもと、グループ各社の教育体系構築支援 社員個別の自律的・主体的なキャリア形成支援 グループ横断の育成施策実施、を主要なテーマとして取り組んでおります。

### 指標及び目標

当社は、男女ともに社員が職業意欲を持ち、ライフ・ワーク・バランスのとれた働きやすい雇用環境を整備するため、育児休業取得率において、女性の育児休業取得率100%を維持し、男性の育児休業取得率を50%以上とすることを目標としております。実績といたしまして、2026年2月期における育児休業取得率は、女性は100%、男性は40%でした。今後も継続して環境整備を進めてまいります。

なお、中途採用者登用の数値目標設定については、新卒採用者よりも中途採用者の割合の方が高いことから、予定しておりません。外国人採用については、当社グループは国籍や人種、性別等の多様性が会社の持続的な成長を目指す上で重要であると認識しており、採用に当たっては、当社グループが求めるスキルや経験を有し、当社グループの経営理念や企業文化に賛同できる優秀な人材を人物本位で採用しており、数値目標設定は予定しておりません。

本指標を用いた取り組みは、当社における内容を記述しております。子会社及び関連会社においては、株式会社市進は正社員に占める女性割合40%を目指す、株式会社茨進は全社員に占める女性割合45%以上を目指す、ベアレントバックアップ制度（時短勤務やフレックスタイム制度）の年間利用者10名以上を目指すなど、各社の事業内容や規模等を踏まえた取り組みを実施しております。

管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異についての実績は、「第1 企業の概況 5 従業員の状況 (4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異」に記載しております。

### 3【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。なお、当該リスクが顕在化する可能性の程度や時期、当該リスクが顕在化した場合の当社グループの業績に与える影響については、合理的に予見することが困難なため記載しておりません。

なお、以下は当社グループの事業活動等に係る全てのリスクを網羅したものではなく、記載した以外のリスクも存在しております。

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

#### 法的規則等に関する影響について

当社グループは、教育サービス事業や介護福祉サービス事業において各種法令・諸規則等の適用を受けております。

教育サービス事業におきましては、制度変更に対応する入試対策、学習指導を実施し地域に根ざした質の高い教育サービスの提供を目指しておりますが、行政による教育制度の変更や入試制度の変更、学習指導要領の改訂等が度々行われており、万一、これらの制度変更に対応できなかった場合や、予期せぬ大きな制度変更が生じ対応に時間を要した場合は、生徒数の減少を招き、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

介護福祉サービス事業におきましては、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるようグループホームやデイサービス等の運営を行っておりますが、社会保障制度、特にその中でも介護保険制度の公的制度的利用に基づく収入であるため、今後の制度や法令の改正によって、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 自然災害や感染症による影響について

想定外の大規模地震・津波・洪水等の自然災害や火災等の事故災害、感染症の流行、その他の要因による社会的混乱等の発生により、当社グループや主要取引先の事業活動の停止または事業継続に支障をきたす事態が発生した場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 人材の確保、育成について

当社グループは、質の高いサービスを提供し、継続的に成長していくために、人材の採用・育成を重要な課題としてとらえております。

教育サービス事業におきましては、新卒・中途・非常勤職員の人材募集から採用・研修・現場での育成まで、多くの人的・物的経営資源を投入しております。しかし、今後、経済情勢や雇用情勢などの急激な変化により、必要な要員が十分に確保できない場合、あるいは、人材育成が計画通りに進捗しなかった場合には質の高いサービスが提供できないこと等により生徒数の減少を招き、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

介護福祉サービス事業におきましては、介護業界の成長に伴う需要の増大による労働力不足が懸念されており、必要な要員が十分に確保できない場合、拠点の展開や当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 個人情報について

当社グループは、多数の顧客、従業員、取引先、株主等に関わる個人情報を有しております。個人情報の適切な取り扱いが事業活動における基本であり、社会的責務であるとの認識のもと、その管理については重要課題であることをグループ内で共有し、社内規程の整備、eラーニングなどの活用も含めた従業員への教育指導の徹底などに努めております。しかしながら、万一、個人情報が外部に漏洩した場合は、当社グループの社会的信用の失墜、損害賠償請求等により、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### システムの障害に関する影響について

当社グループは、顧客情報の管理、請求管理、オンラインサービスによる授業映像の配信等、情報システム・通信ネットワークに依存している業務が存在します。しかしながら、予期せぬ大規模なシステム障害が発生し、復旧にとりわけ長い時間を要した場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 顧客の安全管理に関する影響について

当社グループは、教育サービス事業や介護福祉サービス事業の拠点において、安心・安全な環境でのサービスの提供に努めております。

教育サービス事業におきましては、定期的な施設点検や防災グッズの配備はもちろんのこと、学習塾では通塾メールの導入等を実施しております。しかし、万一、何らかの事情により管理責任を問われる事態が発生した場合は、当社グループの社会的信用の低下につながり、業績等に影響を及ぼす可能性があります。

介護福祉サービス事業におきましては、食事や入浴等のサービスを提供するうえで、安全性等に十分留意しておりますが、事故、食中毒、集団感染等が発生する可能性があり、訴訟や風評被害など当社グループの社会的信用の低下につながり、業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 四半期ごとの収益変動について

当社グループの主要事業である教育サービス事業における学習塾事業では、通常の授業に加え春期、夏期、冬期の講習会を実施しております。そのため通常の授業のみ実施する月と比較して、講習会を実施する月の売上高は増大します。また講習会を実施する時期に重点的に生徒募集を継続していくため、新年度がスタートしてから受験期を迎えるまで生徒数は増大し、1月にピークを迎えます。一方で、人件費、家賃等の教室運営費用は通期で継続して発生するため、第1四半期、第3四半期の収益性が低くなる傾向にあります。

#### 少子化と教育サービス事業の動向及び業界再編について

教育サービス事業におきましては、少子化、受験制度や教育ニーズの多様化などにより、同業他社間の競争も一段と激しくなり、経営環境はますます厳しいものになっております。少子化の影響は、首都圏を中心とした当社グループの事業展開エリアでも他のエリアと比較して、緩やかではありますが進行しております。また、入学試験の平易化が起こることによる入塾動機の希薄化、通塾率の低下が進展した場合は、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

また、同業他社間の競争が激化する中、近年、業界再編の動きは活発化しております。当社を取り巻く経営環境の変化や業界再編の動きを迅速に察知できずにその対応が遅れた場合は、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 競合に関する影響について

教育サービス事業におきましては、参入障壁が低いこともあり多数の競合先があります。当社グループでは千葉県、茨城県、東京都東部地域を重点地域と定め、教育サービスの質を向上させるとともに合格実績を追求すること等により競合他社との差別化を図り、生徒数の確保に努めております。しかし、競合先の教育サービスの内容が相対的に向上した場合及び競合先の合格実績が相対的に上昇した場合は、生徒数の減少を招き、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 「市進学院」「個太郎塾」のフランチャイズ展開について

教育サービス事業におきましては、「市進学院」「個太郎塾」のフランチャイズ展開をしております。フランチャイズ展開は、加盟者と当社グループが対等なパートナーシップと信頼関係に基づき、それぞれの役割を担う共同事業であるため、加盟者もしくは当社グループのいずれかがその役割を果たせないことにより、多くの加盟者との契約が維持できなくなった場合や重大な事故もしくは不祥事等が発生した場合、ブランド全体の信頼性の低下等に繋がり、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 海外事業に関する影響について

教育サービス事業におきましては、海外での学習塾事業、語学関連事業の拠点運営、海外からの留学生を対象とした日本語学校の運営、国外を含む旅行サービス事業の運営をしております。当社グループでは拠点のある各国、地域の動向など情報収集を行い、適切な事業運営が継続できるよう努めております。しかし、海外に関連する事業では、各国の法律や規制、税制などの変化、自然災害の発生、政治情勢及び経済情勢の変化、商習慣や文化の相違、戦争や紛争、テロの発生等により事業継続に支障をきたした場合は、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 敷金及び保証金の保全、回収について

当社グループが展開する校舎及び介護施設の多くは、賃借物件を利用しております。新規で賃貸借契約を締結する際には、可能な限り賃貸人の経営状況等の確認を行うとともに、契約条件についても近隣相場や採算性を十分考慮して決定しております。また、契約締結後も、主管部署が中心となり賃貸人の状況変化の把握に努めております。しかしながら、賃貸人の調査確認は必ずしも常に完璧に行えるとは言い切れない面もあり、賃貸人の状況によっては、敷金及び保証金の保全、回収ができない可能性があります。

#### 固定資産の減損損失及び除却損について

当社グループは、土地・建物、設備等の有形固定資産、映像コンテンツ等の無形固定資産や事業譲受に伴うのれんを計上しております。これらにつきましては、事業の収益性が大きく低下した場合や不動産の市場価格が著しく下落した場合、減損損失が発生する可能性があります。当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

また、老朽化等の理由により一部の既存拠点について移転や改修工事が発生する可能性があり、それらが一定期間に集中した場合、それに伴う固定資産除却損などの特別損失の発生により、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 投資有価証券について

当社グループが保有する投資有価証券について、投資先の財政状況が変動することにより、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 有利子負債について

当社グループは、運転資金及び新規拠点開設の設備投資資金、M&Aのための資金などを主に金融機関からの借入金で調達しております。そのため、現行の金利水準が変動した場合や計画通りの資金調達ができなかった場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### M&Aにおける偶発債務等について

当社グループは、業容拡大、企業価値の最大化を目指し、M&A及び事業譲受を進めております。M&Aや事業譲受においては、対象企業、対象事業の財務、税務、法務及びビジネス等について、極力リスクを回避するために、詳細なデューデリジェンスを実施し、経営会議、取締役会での審議を経て意思決定をしております。しかしながらM&Aや事業譲受の契約締結後において、当社グループが認識していない事項が明らかになった場合や、市場規模の著しい変化、偶発債務や未認識債務の発生など、何らかの要因により事業展開が計画どおりに進まない場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

また、万一、被買収企業に対し当社グループの内部統制を適切かつ有効に適用できないことによる不正行為やコンプライアンス上の問題等が発生した場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 労務関連の影響について

当社グループでは、労務関連について、法令に基づく適正な労務管理などによりリスクの低減に取り組んでいますが、各種コンプライアンス違反（雇用問題、ハラスメント、人権侵害等）が発生した場合、当社グループの社会的信用の低下につながり、業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 法令遵守について

当社グループの事業に関連する主な法令は、特定商取引に関する法律、著作権法、不当景品類及び不当表示防止法、消費者契約法、労働基準法等があります。当社グループでは、経営者及び従業員に法令等の遵守の重要性及び必要性について周知徹底に努め、法令遵守のための体制強化に努めております。しかし、万一、関連する法令等に基づいて損害賠償請求等に係る訴訟等が提起された場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

##### (1)経営成績

当連結会計年度（2025年3月1日から2026年2月28日まで）におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善により、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、不安定な国際情勢に起因する原材料価格・エネルギー価格の高騰、継続する物価上昇により個人消費の減速が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループにおきましては、教育サービス事業と介護福祉サービス事業の2つを主要なビジネスセグメントとして事業展開を行っております。教育サービス業界におきましては、少子化による市場縮小が続く中、大学入試制度改革や高等学校等就学支援金の拡充など、様々な教育制度改革が進んでおり、経営環境は引き続き大きな変革の時期にあります。映像授業やオンライン教育など教育のデジタル化も急速に進行し、多様化するニーズに適したサービス、より質の高い教育サービスに対する顧客の期待はますます高まっております。また、介護福祉サービス業界におきましては、今後も高齢者人口の増加が進む中、介護福祉サービスの需要は益々高まることが見込まれる一方で、人材確保と介護保険制度改正への適切かつ迅速な対応が重要な課題となっております。

このような経営環境のもと、当社グループでは、「一生涯を通じた幅広い『学び』の機会を提供することで、ともに人間力を高め、笑顔あふれる社会を実現する」をグループの基本理念としております。学びの場、生活支援の場を通じて、より良いサービスの提供に努めることで、豊かな人生、笑顔あふれる社会の実現を目指し、ステークホルダーの皆さまへ貢献できるよう、継続企業（Going Concern）として持続的な発展を目指しております。

当連結会計年度におけるグループ全体の売上高は前連結会計年度に比べ増収となりました。経費面におきましては、人材の適正配置、業務効率化などを引き続き実践する一方、必要な投資も積極的に実行しております。

当連結会計年度の連結業績は、売上高18,653百万円（前年同期比1.1%増）、営業利益899百万円（前年同期比2.1%減）、経常利益752百万円（前年同期比4.6%増）、特別利益として投資有価証券売却益692百万円を計上したことで、親会社株主に帰属する当期純利益は628百万円（前年同期比98.1%増）となっております。

セグメント別の概況は以下のとおりです。

### <教育サービス事業>

学習塾事業においては、丁寧な「1対1対応」として、授業前後のコミュニケーションを徹底し、生徒一人一人の状況に深く寄り添う個別のめんどろみを実践しております。また、保護者の皆さまには、入会時の期待やご要望に対し、面談や個人別カルテを通じて情報を共有し、ご家庭と一緒に子供の成長を見守る体制を強化しております。小学校低学年においては、「ウイングキッズコース」や「パンセフロンティエル」など専門コースの運営を通じて、在籍生徒数増加を実現できております。また、難関大学・国公立大学現役合格を目指す高校生のための予備校におきましては、学習塾を運営するグループ各社が連携し、志望校合格から逆算した「現役合格ロードマップ」の策定や生徒のモチベーションアップのためのイベント企画を実践するなど、大学入試改革に対応した合格者数及び合格率の向上を重要課題として注力してまいりました。結果、高校生の在籍生徒数は増加しております。BX(ビジネストランスフォーメーション)につきましては、完全個別対応映像学習システム「ウイングネット」による「効率的学習」「最適化された進度」「中学受験・高校受験・大学受験までの一貫指導」を実現する新たな学習モデルを推進しております。2025年3月には千葉県市川市に「Ichishinデジタルベース」を開設し、収録用及び配信用の機材と設備の充実を図り、オンライン授業による小学校低学年の生徒数のさらなる増加につながっております。人材の採用と育成におきましては、グループの人材育成部署であるHRD本部による社員研修の充実の他、評価と課題提示など、従業員に対する「1対1対応」も重要テーマとして取り組んでおります。地域展開としましては、引き続き、千葉県・茨城県・東京都東部地域を中心としたドミナント強化、また神奈川県・埼玉県においても各地域のニーズに応じた教育サービスの提供、地域ごとの合格実績の確立に取り組んでおります。その結果、当連結会計年度の学習塾在籍生徒数につきましては、グループ各社とも堅調に推移いたしました。

コンテンツ事業をはじめとする教育関連事業では、完全個別対応映像学習システム「ウイングネット」において、新しい学びへの対応、多様性に寄り添うサービス提供、自立型学習を促すコンテンツシステムの拡張等について引き続き重点課題として取り組んでまいりました。具体的には、中学校教科書改訂に伴うコンテンツリニューアルや情報科目の充実、小論文対策講座の拡充など、タイムリーでフレキシブルな講座設定を実現しております。また、システム面では、生徒の学びに寄り添う進捗管理機能を強化いたしました。これらの取り組みもあり、ウイングネットの加盟校数、拠点数は引き続き伸長し、堅調な業績を維持しております。

経費面におきましては、学習塾部門において、防犯カメラの入れ替え、追加導入など安心・安全のための必要な投資を進めております。経費面全体としては物価高が長期化している中、引き続き経費節減に努めております。

以上の結果、当連結会計年度のセグメントの経営成績は売上高15,614百万円(前年同期比0.7%増)、セグメント利益(営業利益)643百万円(前年同期比5.8%減)となりました。

<介護福祉サービス事業>

現在、当社グループは、訪問介護、居宅介護支援、デイサービス、有料老人ホーム、認知症グループホーム、小規模多機能型居宅介護、障がい者総合支援、介護研修など、それぞれの地域のニーズに応じた介護サービスを提供できるよう努めております。介護福祉サービス事業における最重要課題である人材の採用と育成につきましては、将来、当社のグループ介護福祉事業の中核となる人材の採用・育成のため、「グループ介護事業推進本部」を設置し、取り組んでおります。また、グループ内の介護事業会社による合同研修を定期的に行い、専門知識や介護ノウハウの共有、グループ内の人材交流を推進しております。当連結会計年度も感染症対応の問題や、人件費の高騰、物価高による売上原価の増加など、厳しい経営環境が続く中、引き続き良質なサービスの提供継続に努め、いずれの施設、事業においても多くのご利用者様にご活用いただき、順調に稼働できております。今後も、信頼獲得を第一義とした質の高い介護サービスを心掛け、高い稼働率、入居率を継続できるよう取り組んでまいります。

当連結会計年度のセグメントの経営成績は売上高3,039百万円（前年同期比3.1%増）、セグメント利益（営業利益）255百万円（前年同期比8.7%増）となりました。

## (2)財政状態

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末と比較し244百万円減少し、13,402百万円となりました。前連結会計年度末と比較して、流動資産は584百万円増加し7,008百万円となり、固定資産は829百万円減少し6,394百万円となっております。

流動資産の増加要因は、現金及び預金の増加などによるものであります。

固定資産の減少要因は、投資有価証券の減少などによるものであります。

また、当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末と比較し569百万円減少し、10,881百万円となりました。前連結会計年度末と比較して、流動負債は308百万円増加し4,484百万円となり、固定負債は877百万円減少し6,396百万円となっております。

流動負債の増加要因は、未払金及び未払費用の増加などによるものであります。

固定負債の減少要因は、長期借入金の減少などによるものであります。

当連結会計年度末の純資産は、前連結会計年度末と比較し324百万円増加し、2,521百万円となりました。

主な要因としましては利益剰余金の増加によるものであります。

この結果、当連結会計年度における自己資本比率は18.4%（前連結会計年度15.7%）となり、当連結会計年度における1株当たり純資産額は306円53銭（前連結会計年度263円83銭）となっております。

## (3)キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、4,127百万円（前年同期比21.2%増）となりました。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益945百万円、減価償却費541百万円、減損損失247百万円等が収入要因となり、投資有価証券売却益692百万円、法人税等の支払額又は還付額213百万円等が支出要因となりました。

この結果、営業活動によるキャッシュ・フローは1,365百万円の収入となり、前連結会計年度末に比べ175百万円収入が増加いたしました。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却による収入776百万円等が収入要因となり、有形固定資産の取得による支出261百万円、映像授業コンテンツの制作による支出111百万円等が支出要因となりました。

この結果、投資活動によるキャッシュ・フローは、280百万円の収入となり、前連結会計年度に比べ1,043百万円収入が増加いたしました。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入による収入750百万円が収入要因となり、長期借入金の返済による支出1,309百万円、リース債務の返済による支出195百万円等が支出要因となりました。

この結果、財務活動によるキャッシュ・フローは926百万円の支出となり、前連結会計年度に比べ569百万円支出が増加いたしました。

(4)生産、受注及び販売の実績

イ．生産実績

当社グループは、主に生徒に対して授業を行うことを業務としておりますので、生産能力として表示すべき適当な指標はありません。

ロ．受注実績

該当事項はありません。

ハ．販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前期比(%)
教育サービス事業	15,614	0.7
介護福祉サービス事業	3,039	3.1
合計	18,653	1.1

(注) セグメント間取引については相殺消去しております。

(5)資本の財源及び資金の流動性

当社グループの主要な資金需要は、運転資金と戦略的投資資金であります。運転資金需要の主なもの、季節講習など売上の季節変動に伴うものであり、戦略的投資資金としては、拠点展開等の設備投資、映像コンテンツ関連の投資、企業買収などであります。運転資金及び戦略的投資資金は、主に内部留保資金及び金融機関からの借入により、資金調達することとしております。

(6)経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、教育サービス事業、介護福祉サービス事業を運営しており、その活動を通じて地域の皆様に貢献し、サービスの継続的な提供と品質向上に努めております。当社グループは、連結売上高、連結営業利益の達成度を経営上の目標の達成状況を判断するための指標としております。

また、収益性の判断指標としては、売上高営業利益率を重視しております。

これらを前提として、継続的な教育サービス、介護福祉サービスの提供とサービス向上を図るため、中期的には新規の投資と既存事業の成長を両立させながら、売上高営業利益率5%以上を維持することを目標としております。

(7)重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表を作成するにあたって、資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を用いておりますが、これらの見積り及び仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。

連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは「第5 経理の状況

1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載しております。

5【重要な契約等】

業務・資本提携契約

当社は、2014年5月14日付、株式会社学研ホールディングスと業務・資本提携契約を締結しております。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度においては、主に市進学院、個太郎塾、茨進における新規開校や既存校舎の移転及びリニューアルに係る設備関連工事を実施し、設備投資総額は475百万円となりました。

セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

##### (1)教育サービス事業

当連結会計年度の主な設備投資は、千葉県市川市でのIchishinデジタルベースの開設、市進学院では豊洲教室の増床、個太郎塾では、渋谷本町教室、芦花公園教室、沼袋教室などの開校、また、茨進においてはつくば市への本部移転、その他各拠点の施設リニューアルなど総額437百万円の投資を実施いたしました。

##### (2)介護福祉サービス事業

当連結会計年度の主な設備投資は、訪問介護ステーションNIWAの移転の他、各施設の設備拡充など総額37百万円の投資を実施いたしました。

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

2026年2月28日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員 数 (人)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	車両 運搬具	器具備品	リース 資産	合計	
市進 本八幡教室ほか 111教室	教育サー ビス事業	教室	645,827	156,432 (689.9)	-	48,197	58,001	908,459	-
個太郎塾 市川教室ほか 238教室	教育サー ビス事業	教室	270,255	- (-)	-	13,547	8,889	292,693	-
茨進 土浦駅前校ほか 90教室	教育サー ビス事業	教室	107,789	- (-)	-	3,665	239,527	350,981	-
桐杏学園 西日暮里教室ほか 13教室	教育サー ビス事業	教室	49,650	- (-)	-	2,222	1,988	53,860	-
本社ほか (市川市八幡)	教育サー ビス事業	事務所	195,227	- (-)	682	22,933	60,091	278,934	56 (43)
介護事業 大森事業所ほか 28事業所	介護福祉 サービス 事業	事業所	15,066	- (-)	701	1,795	292	17,856	-

(注) 1. 市進学院、市進予備校、個太郎塾、茨進、桐杏学園、介護事業の運営は、当社国内子会社が行っております。

2. 従業員数の(外書)は臨時雇用者の年間平均人員であります。

3. 茨進におけるリース資産は、主に、セール・アンド・リースバック取引によるものであります。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、今後の景気予測、業界動向、投資回収計画、予算の状況等を総合的に勘案し、策定しております。

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	34,000,000
計	34,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2026年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (2026年5月27日)	上場金融商品取引所名又は登録認可 金融商品取引業協会名	内容
普通株式	10,604,888	10,604,888	東京証券取引所スタンダード市場	単元株式数100株
計	10,604,888	10,604,888	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2016年6月17日～ 2016年6月30日(注)	154	10,604	887	1,476,237	887	345,914

(注) 2016年6月17日から2016年6月30日までの間に新株予約権の行使により、発行済株式総数が154,000株、資本金が887千円及び資本準備金が887千円増加しております。

## (5) 【所有者別状況】

2026年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	3	10	35	5	11	2,753	2,817	-
所有株式数(単元)	-	1,615	28	45,416	19	74	58,863	106,015	3,388
所有株式数の割合(%)	-	1.52	0.03	42.84	0.02	0.07	55.52	100.00	-

(注) 自己株式2,563,793株は、「個人その他」に25,637単元及び「単元未満株式の状況」に93株含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

2026年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社学研ホールディングス	東京都品川区西五反田2丁目11番8号	3,993	49.66
梅田 威男	千葉県市川市	360	4.47
市進グループ社員持株会	千葉県市川市八幡2丁目3番11号	234	2.91
株式会社ブルースカイ	兵庫県神戸市中央区磯辺通4丁目1番5号	200	2.48
株式会社千葉銀行	千葉県千葉市中央区千葉港1番2号	146	1.81
田代 英壽	神奈川県鎌倉市	100	1.24
下屋 俊裕	千葉県習志野市	84	1.04
横田 浩二	宮城県大崎市	56	0.70
朝賀 万紀	千葉県船橋市	55	0.68
東方地所株式会社	千葉県千葉市中央区新田町16番17号	53	0.65
計	-	5,283	65.70

(注) 上記のほか当社保有の自己株式2,563,793株があります。

## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2026年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,563,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,037,800	80,378	-
単元未満株式	普通株式 3,388	-	-
発行済株式総数	10,604,888	-	-
総株主の議決権	-	80,378	-

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己保有株式93株が含まれております。

## 【自己株式等】

2026年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社市進ホールディングス	千葉県市川市八幡2丁目3番11号	2,563,700	-	2,563,700	24.17
計	-	2,563,700	-	2,563,700	24.17

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号による普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2025年10月21日)での決議状況 (取得期間2025年10月22日)	上限 200,000	上限 90,200
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	200,000	90,200
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	-	-

(注) 東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)により取得したものであります。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移 転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	97,000	40,837	-	-
保有自己株式数	2,563,793	-	2,563,793	-

(注) 1. 当事業年度における「その他」は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分であります。

2. 当期間における保有自己株式には、2026年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### 3【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと考えており、安定的な配当を維持しつつ、企業体質の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案した上で、業績に応じた配当を行うことを基本方針としております。

当社は、期末配当の年1回、剰余金の配当を行うことを基本的な方針としております。配当の決定機関につきましては、会社法第459条の規定に基づき、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり年10円の配当を実施することを決定いたしました。

内部留保資金につきましては、連結グループ内各事業会社の業容拡大のための設備資金や新規事業の拡充等に活用し、企業価値の向上に努めてまいります。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）
2026年4月14日 取締役会決議	80	10

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに対する基本的な考え方

当社グループは、継続企業としてあらゆる事業活動において公明正大かつ責任のある企業行動を確実に実践し、グループ全体の企業価値を最大限に向上させていくことが重要な経営課題であると考えております。

厳しい経営環境のもと、グループ一丸となった経営戦略の策定及び実践、環境の変化に対応する迅速な意思決定と業務執行を推進するとともに、すべてのステークホルダーからの信頼と信託に応えるべく、経営の健全性と透明性の確保に努めることをコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方としております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

#### イ．企業統治の体制の概要

取締役会は、本有価証券報告書提出日現在、取締役8名（うち、社外取締役1名）で構成され、定例または臨時の取締役会を開催し、経営上の重要な意思決定を行うとともに、各取締役の業務執行を監督する機関として運営を行っております。取締役会の構成員の氏名は、「(2) 役員状況 役員一覧」に記載のとおりであります。また、取締役、執行役員が出席する経営会議（役員会）を毎月数回開催し、社内各部門の業務執行状況等を共有し、課題や問題点を把握するとともに経営上の必要事項の意思決定を行っております。

当社は監査役会を設置しております。監査役会は常勤監査役1名、非常勤監査役2名（2名とも社外監査役）で構成され、定例または臨時の監査役会を実施しております。監査役会の構成員の氏名は、「(2) 役員状況 役員一覧」に記載のとおりであります。取締役会には監査役全員が参加し、適宜意見表明を行うとともに、各取締役の業務執行状況につき監査を行っております。

なお、当社は、2026年5月28日開催予定の第52回定時株主総会の議案（決議事項）として、「取締役9名選任の件」を上程しており、当該議案が承認可決されれば、取締役会は取締役9名で構成され、うち1名が社外取締役（うち1名は女性）となります。

#### ロ．企業統治の体制を採用する理由

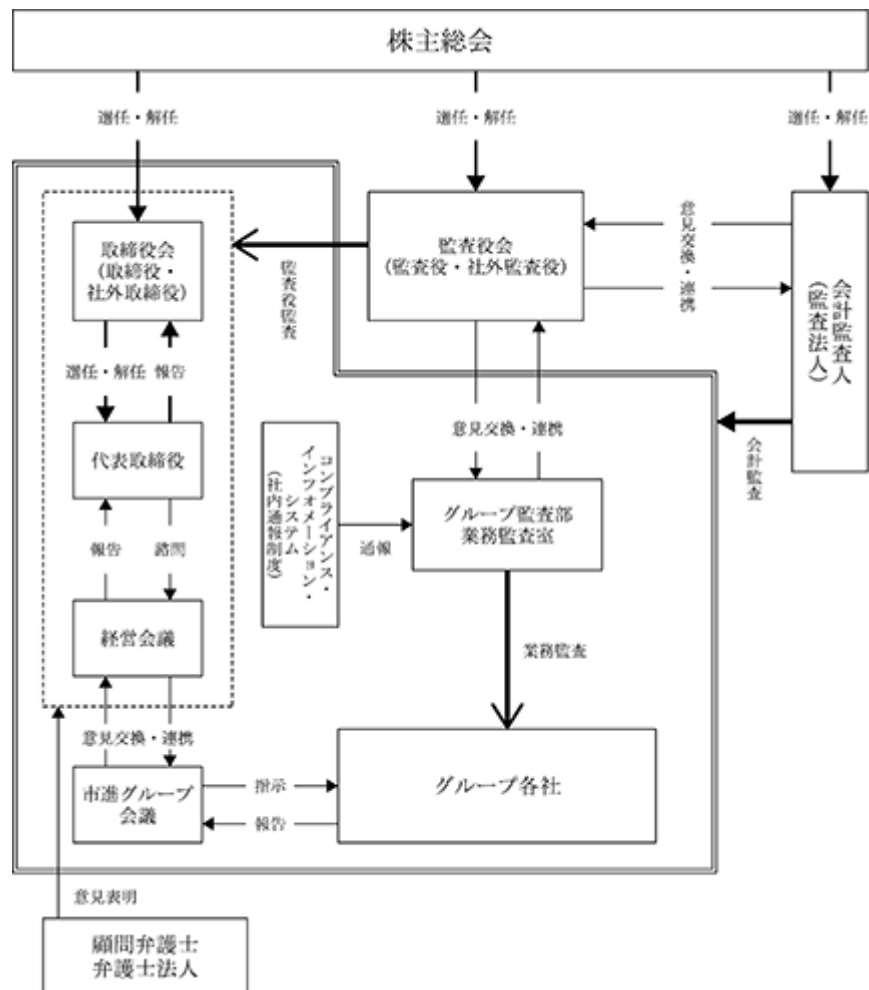
当社の取締役は、本有価証券報告書提出日現在、社外取締役1名を含む8名で構成されており、少人数構成による迅速な経営判断と客観的、中立的経営監視機能の向上との両立が可能な体制となっております。また、監査役3名のうち2名を社外監査役とすることで、実効性のある経営の監視監督に努め、経営の健全性、透明性の維持、確保を図るため、現状の体制を採用しております。

なお、当社は、2026年5月28日開催予定の第52回定時株主総会の議案（決議事項）として、「取締役9名選任の件」を上程しており、当該議案が承認可決されれば、取締役会は取締役9名で構成され、うち1名が社外取締役（うち1名は女性）となります。

## 企業統治に関するその他の事項

## イ．内部統制システムの整備の状況

内部統制システムは次のとおりであります。



## ロ．リスク管理体制の整備の状況

当社では、内部監査を実施するグループ監査部業務監査室を各事業会社及び当社統括本部とは独立した部門として設置しており、「内部監査規程」に基づく社内業務監査を計画的に実施し、内部牽制を図っております。また、その監査結果、問題点及び今後の課題は経営会議及び代表取締役に報告する体制を採用しております。

## ハ．当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

子会社等の代表取締役は取締役会や経営会議、グループ経営戦略会議にて経営計画、経過報告、財務報告等の重要な報告を行い、その構成員からの指摘、助言、追加提案等を受け、業務執行の状況を把握できる体制を構築し、子会社等に対し必要な指示、指導を行い、業務の適正を確保しております。

法令に関する事項や契約事項についても、法務部において相談窓口を設置し、子会社の業務執行に必要な事項について顧問弁護士等の専門的判断を提供しております。

## 二．責任限定契約の内容

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には賠償責任を限定する旨の契約（責任限定契約）を締結しております。当該契約に基づく賠償責任の限度額は法令の定める最低責任限度額であります。

## ホ．取締役会で決議できる株主総会決議事項

### 剰余金の配当等の決定

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定めることができる旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

### 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

## ヘ．取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

## ト．取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

なお、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨も定款に定めております。

また、解任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

## チ．株主総会の特別決議要件

会社法第309条第2項に定める特別決議要件について、定款に別に定めがある場合を除き、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

## 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険（以下、「D&O保険」という。）契約を保険会社との間で締結しており、これにより、当社及びすべての当社子会社におけるすべての取締役、監査役が業務に起因して損害賠償責任を負った場合における損害（ただし、保険契約上で定められた免責事由に該当するものを除く。）等を填補することとしております。なお、D&O保険の保険料は、全額を当社が負担しております。

取締役会の活動状況

イ．当事業年度において当社は取締役会を9回開催しており、個々の役員の出席状況については次のとおりであります。

役職名	氏名	取締役会出席状況
代表取締役会長	下屋 俊裕	9回 / 9回
代表取締役社長	福住 一彦	9回 / 9回
取締役副社長	竹内 厚	2回 / 2回
取締役副社長	荻原 俊平	9回 / 9回
専務取締役	土坂 恭司	9回 / 9回
常務取締役	原園 明宏	9回 / 9回
取締役	尾和 保弘	9回 / 9回
取締役	小野 有紀子	9回 / 9回
社外取締役	小幡 績	9回 / 9回
常勤監査役	大谷木 進	9回 / 9回
社外監査役	松田 勉	8回 / 9回
社外監査役	佐々木 伸悟	8回 / 9回

(注) 竹内厚氏は、2025年5月29日開催の定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任しており、退任前に開催された取締役会の出席状況を記載しております。

ロ．当事業年度における取締役会の主な審議事項

）決議事項

取締役および執行役員人事の件、子会社役員人事の件、M&Aに関する件、グループ会社組織再編の件、自社所有不動産売却の件、予算案承認の件、剰余金配当の件、会社法計算書類承認の件、定時株主総会の招集と付議議案承認の件、有価証券報告書提出の件、決算短信承認の件、内部統制報告書の提出、コーポレートガバナンス報告書の提出

）報告事項

月次業績報告の件、組織変更の件、利害関係者取引の件、人材育成、社内環境整備方針の件

(2) 【役員の状況】

役員一覧

a . 2026年5月27日（有価証券報告書提出日）現在の当社の役員の状況は、以下のとおりであります。

男性 10名 女性 1名 （役員のうち女性の比率9.09%）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長	下屋 俊裕	1952年11月20日生	1977年4月 当社入社 1997年3月 第一事業本部教育本部長に就任 1999年3月 第二事業本部教育本部長に就任 2001年5月 当社取締役第二事業本部教育本部長に就任 2008年3月 当社取締役第二事業本部本部長に就任 2008年6月 当社常務取締役に就任 2010年3月 株式会社ウイングネット代表取締役社長に就任 株式会社市進取締役副社長に就任 2011年5月 当社代表取締役社長に就任 2011年9月 株式会社江戸カルチャーセンター代表取締役社長に就任 2014年3月 株式会社江戸カルチャーセンター取締役会長に就任 2015年3月 株式会社ウイングネット取締役会長に就任 2018年3月 株式会社市進ラボ代表取締役社長に就任 2020年4月 株式会社学研教育ホールディングス代表取締役会長に就任（現任） 2020年5月 当社代表取締役会長に就任（現任） 2021年3月 株式会社市進ラボ取締役会長に就任 2022年3月 株式会社プレジャーコム取締役会長に就任 2023年3月 株式会社ウイングネット取締役相談役に就任（現任） 株式会社市進ラボ取締役相談役に就任（現任） 株式会社市進コンサルティング取締役会長に就任（現任）	(注) 3	84,000
代表取締役 社長	福住 一彦	1957年8月14日生	2010年7月 株式会社学研エデュケーション代表取締役社長に就任 2014年8月 株式会社学研教育ホールディングス代表取締役社長に就任 2016年10月 株式会社学研ホールディングス執行役員に就任 2017年12月 株式会社学研ホールディングス上席執行役員に就任 2018年12月 株式会社学研ホールディングス取締役に就任 2020年3月 当社顧問に就任 2020年5月 当社代表取締役社長に就任（現任） 2020年12月 株式会社学研ホールディングス常務取締役に就任 2022年12月 株式会社学研ホールディングス専務取締役に就任 2023年8月 株式会社学研ホールディングス取締役副社長に就任 2025年12月 株式会社学研ホールディングス会長に就任（現任）	(注) 3	30,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役副社長	荻原 俊平	1964年11月17日生	2014年3月 株式会社ウイングネット本部長に就任 2015年3月 株式会社ウイングネット執行役員に就任 2016年3月 株式会社ウイングネット代表取締役社長に就任 2018年3月 当社執行役員に就任 2018年3月 株式会社アイウイングトラベル取締役に就任(現任) 2019年3月 ジャパンライム株式会社代表取締役社長に就任 2020年5月 当社取締役に就任 2023年3月 ジャパンライム株式会社代表取締役会長に就任(現任) 2023年5月 当社常務取締役に就任 2023年7月 株式会社学研教育ホールディングス取締役に就任(現任) 2023年8月 株式会社学研ホールディングス執行役員に就任 2024年4月 株式会社学研ホールディングス上席執行役員に就任 2024年11月 株式会社文理代表取締役会長兼社長に就任 2025年5月 当社取締役副社長に就任(現任) 2026年5月 株式会社文理代表取締役会長CEOに就任(現任) 2026年5月 株式会社学研ホールディングス常務執行役員に就任(現任)	(注)3	9,000
専務取締役	土坂 恭司	1959年12月31日生	1988年3月 当社入社 2009年3月 当社第二事業本部運営管理本部本部長に就任 2010年3月 株式会社市進執行役員第二事業本部運営本部運営支援部部長に就任 2011年3月 当社執行役員統括本部統括本部付に就任 2012年3月 当社統括本部副本部長に就任 株式会社市進取締役に就任 2012年5月 当社取締役に就任 2013年3月 株式会社市進代表取締役社長に就任 2017年2月 株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY取締役に就任 2017年3月 株式会社茨進代表取締役社長に就任 2019年5月 当社常務取締役に就任 2020年3月 株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY代表取締役に就任(現任) 2022年5月 当社専務取締役に就任(現任)	(注)3	35,300

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
常務取締役	原園 明宏	1964年10月16日生	1988年4月 2012年3月 2013年3月 2013年5月 2015年3月 2017年3月 2019年3月 2019年5月 2020年3月 2022年5月 2023年3月	当社入社 株式会社市進教育本部教育本部長に就任 株式会社市進執行役員教育本部本部長に就任 株式会社GIビレッジ取締役に就任 株式会社市進取締役に就任 当社執行役員に就任 株式会社市進常務取締役に就任 当社取締役に就任 株式会社市進代表取締役社長に就任 株式会社市進東京代表取締役社長に就任 当社常務取締役に就任(現任) 株式会社市進代表取締役会長に就任(現任)	(注)3	16,800
取締役 統括本部 本部長	尾和 保弘	1970年2月7日生	2012年3月 2017年3月 2018年3月 2019年3月 2020年3月 2020年7月 2022年3月 2022年5月	当社経営企画室室長に就任 当社財務部部長に就任 株式会社アイウイングトラベル取締役に就任 当社執行役員統括本部副本部長に就任 株式会社市進アシスト代表取締役社長に就任(現任) 株式会社ゆい常務取締役に就任(現任) 当社執行役員統括本部本部長に就任 当社取締役統括本部本部長に就任(現任)	(注)3	8,000
取締役	小野 有紀子	1971年1月12日生	2015年4月 2018年3月 2020年4月 2020年10月 2020年11月 2022年3月 2022年5月	株式会社学研ホールディングス広報室長に就任 株式会社学研スマイルハートフル代表取締役に就任 株式会社学研プロダクツサポート取締役に就任 株式会社学研ロジスティクス取締役に就任 株式会社学研エデュケーションナル取締役に就任 株式会社学研教育ホールディングス取締役に就任(現任) 当社顧問に就任 当社取締役に就任(現任)	(注)3	6,000
取締役	小幡 績	1967年10月5日生	1992年4月 1999年7月 2001年11月 2001年12月 2003年4月 2016年5月 2023年4月	大蔵省(現財務省)入省 大蔵省退官 ハーバード大学経済学博士 (Ph.D.Economics)取得 一橋大学経済研究所専任講師に就任 慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授に就任 当社取締役に就任(現任) 慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授に就任(現任)	(注)3	4,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役	大谷木 進	1959年9月5日生	1983年4月 当社入社 2011年3月 当社第二管理部長に就任 2014年3月 株式会社茨進運営支援本部本部長に就任 2016年3月 株式会社茨進執行役員運営支援本部本部長に就任 2019年5月 当社常勤監査役に就任(現任)	(注)4	23,800
監査役	松田 勉	1954年10月31日生	2006年7月 東京国税局査察部統括官 2013年7月 東京国税局調査第四部次長 2014年7月 麹町税務署長 2015年8月 松田勉税理士事務所開業 2019年5月 当社監査役に就任(現任) 2024年3月 GMOフィナンシャルホールディングス社外取締役に就任(現任)	(注)4	4,000
監査役	佐々木 伸悟	1958年7月3日生	1992年3月 公認会計士登録 1997年2月 税理士登録 2003年4月 佐々木公認会計士事務所開業 2019年1月 行政書士登録 2023年5月 当社監査役に就任(現任)	(注)4	2,000
計					222,900

- (注) 1. 取締役 小幡績は、社外取締役にあります。  
2. 監査役 松田勉及び佐々木伸悟は、社外監査役にあります。  
3. 2025年5月29日開催の定時株主総会の終結の日から1年間  
4. 2023年5月25日開催の定時株主総会の終結の日から4年間

b. 2026年5月28日開催予定の第52回定時株主総会（以下「本定時株主総会」といいます。）の議案（決議事項）として、「取締役9名選任の件」を上程しており、当該議案が承認可決されますと、当社の役員の状況及びその任期は、以下のとおりとなる予定です。なお、役員の役職等につきましては、本定時株主総会の直後に開催が予定される取締役会の決議事項の内容（役職等）を含めて記載しております。

男性 11名 女性 1名（役員のうち女性の比率8.3%）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長	下屋 俊裕	1952年11月20日生	1977年4月 当社入社 1997年3月 第一事業本部教育本部長に就任 1999年3月 第二事業本部教育本部長に就任 2001年5月 当社取締役第二事業本部教育本部長に就任 2008年3月 当社取締役第二事業本部本部長に就任 2008年6月 当社常務取締役に就任 2010年3月 株式会社ウイングネット代表取締役社長に就任 株式会社市進取締役副社長に就任 2011年5月 当社代表取締役社長に就任 2011年9月 株式会社江戸カルチャーセンター代表取締役に就任 2014年3月 株式会社江戸カルチャーセンター取締役会長に就任 2015年3月 株式会社ウイングネット取締役会長に就任 2018年3月 株式会社市進ラボ代表取締役社長に就任 2020年4月 株式会社学研教育ホールディングス代表取締役に就任（現任） 2020年5月 当社代表取締役会長に就任（現任） 2021年3月 株式会社市進ラボ取締役に就任 2022年3月 株式会社プレジャーコム取締役に就任 2023年3月 株式会社ウイングネット取締役相談役に就任（現任） 株式会社市進ラボ取締役相談役に就任（現任） 株式会社市進コンサルティング取締役に就任（現任）	(注) 3	84,000
取締役副会長	福住 一彦	1957年8月14日生	2010年7月 株式会社学研工デュケーショナル代表取締役に就任 2014年8月 株式会社学研教育ホールディングス代表取締役に就任 2016年10月 株式会社学研ホールディングス執行役員に就任 2017年12月 株式会社学研ホールディングス上席執行役員に就任 2018年12月 株式会社学研ホールディングス取締役に就任 2020年3月 当社顧問に就任 2020年5月 当社代表取締役社長に就任（現任） 2020年12月 株式会社学研ホールディングス常務取締役に就任 2022年12月 株式会社学研ホールディングス専務取締役に就任 2023年8月 株式会社学研ホールディングス取締役副社長に就任 2025年12月 株式会社学研ホールディングス会長に就任（現任） 2026年5月 当社取締役副会長（就任予定）	(注) 3	30,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	荻原 俊平	1964年11月17日生	2014年3月 株式会社ウイングネット本部長に就任 2015年3月 株式会社ウイングネット執行役員に就任 2016年3月 株式会社ウイングネット代表取締役社長に就任 2018年3月 当社執行役員に就任 2018年3月 株式会社アイウイングトラベル取締役に就任 2019年3月 ジャパンライム株式会社代表取締役社長に就任 2020年5月 当社取締役に就任 2023年3月 ジャパンライム株式会社代表取締役会長に就任 2023年5月 当社常務取締役に就任 2023年7月 株式会社学研教育ホールディングス取締役に就任(現任) 2023年8月 株式会社学研ホールディングス執行役員に就任 2024年4月 株式会社学研ホールディングス上席執行役員に就任 2024年11月 株式会社文理代表取締役会長兼社長に就任 2025年5月 当社取締役副社長に就任(現任) 2026年5月 株式会社文理代表取締役会長CEOに就任(現任) 2026年5月 株式会社学研ホールディングス常務執行役員に就任(現任) 2026年5月 当社代表取締役社長(就任予定)	(注)3	9,000
専務取締役	原園 明宏	1964年10月16日生	1988年4月 当社入社 2012年3月 株式会社市進教育本部教育本部長に就任 2013年3月 株式会社市進執行役員教育本部本部長に就任 2013年5月 株式会社GIビレッジ取締役に就任 2015年3月 株式会社市進取締役に就任 2017年3月 当社執行役員に就任 2019年3月 株式会社市進常務取締役に就任 2019年5月 当社取締役に就任 2020年3月 株式会社市進代表取締役社長に就任 株式会社市進東京代表取締役社長に就任 2022年5月 当社常務取締役に就任(現任) 2023年3月 株式会社市進代表取締役会長に就任 2026年5月 当社専務取締役(就任予定)	(注)3	16,800
常務取締役 統括本部 本部長	尾和 保弘	1970年2月7日生	2012年3月 当社経営企画室室長に就任 2017年3月 当社財務部長に就任 2018年3月 株式会社アイウイングトラベル取締役に就任 2019年3月 当社執行役員統括本部副本部長に就任 2020年3月 株式会社市進アシスト代表取締役社長に就任(現任) 2020年7月 株式会社社ゆい常務取締役に就任(現任) 2022年3月 当社執行役員統括本部本部長に就任 2022年5月 当社取締役統括本部本部長に就任(現任) 2026年5月 当社常務取締役統括本部本部長(就任予定)	(注)3	8,000

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	小野 有紀子	1971年1月12日生	2015年4月 2018年3月 2020年4月 2020年10月 2020年11月 2022年3月 2022年5月	株式会社学研ホールディングス広報室長に就任 株式会社学研スマイルハートフル代表取締役社長に就任 株式会社学研プロダクツサポート取締役役に就任 株式会社学研ロジスティクス取締役役に就任 株式会社学研エデュケーショナル取締役役に就任 株式会社学研教育ホールディングス取締役役に就任(現任) 当社顧問に就任 当社取締役に就任(現任)	(注)3	6,000
取締役	三木 健二	1967年10月28日生	2018年12月 2019年3月 2021年3月 2022年3月 2023年3月 2024年3月 2026年5月	株式会社N P S 成田予備校取締役に就任 株式会社市進取締役に就任 株式会社市進東京取締役副社長に就任 株式会社I G H代表取締役社長に就任(現任) 株式会社市進取締役副社長に就任 株式会社市進東京代表取締役社長に就任(現任) 株式会社市進代表取締役社長に就任(現任) 当社執行役員に就任(現任) 当社取締役に就任(就任予定)	(注)3	5,700
取締役相談役	土坂 恭司	1959年12月31日生	1988年3月 2009年3月 2010年3月 2011年3月 2012年3月 2012年5月 2013年3月 2017年2月 2017年3月 2019年5月 2020年3月 2022年5月 2026年5月	当社入社 当社第二事業本部運営管理本部本部長に就任 株式会社市進執行役員第二事業本部運営本部運営支援本部長に就任 当社執行役員統括本部統括本部付に就任 当社統括本部副本部長に就任 株式会社市進取締役に就任 当社取締役に就任 株式会社市進代表取締役社長に就任 株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY取締役に就任 株式会社茨進代表取締役社長に就任 当社常務取締役に就任 株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY代表取締役に就任(現任) 当社専務取締役に就任(現任) 当社取締役相談役に就任(就任予定)	(注)3	35,300

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	小幡 績	1967年10月5日生	1992年4月 1999年7月 2001年11月 2001年12月 2003年4月 2016年5月 2023年4月	大蔵省(現財務省)入省 大蔵省退官 ハーバード大学経済学博士 (Ph.D.Economics)取得 一橋大学経済研究所専任講師に就任 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 准教授に就任 当社取締役(現任) 慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授に就任(現任)	(注)3	4,000
常勤監査役	大谷木 進	1959年9月5日生	1983年4月 2011年3月 2014年3月 2016年3月 2019年5月	当社入社 当社第二管理部長に就任 株式会社茨進運営支援本部部長に就任 株式会社茨進執行役員運営支援本部部長に就任 当社常勤監査役に就任(現任)	(注)4	23,800
監査役	松田 勉	1954年10月31日生	2006年7月 2013年7月 2014年7月 2015年8月 2019年5月 2024年3月	東京国税局査察部統括官 東京国税局調査第四部次長 麹町税務署長 松田勉税理士事務所開業 当社監査役に就任(現任) GMOフィナンシャルホールディングス社 外取締役に就任(現任)	(注)4	4,000
監査役	佐々木 伸悟	1958年7月3日生	1992年3月 1997年2月 2003年4月 2019年1月 2023年5月	公認会計士登録 税理士登録 佐々木公認会計士事務所開業 行政書士登録 当社監査役に就任(現任)	(注)4	2,000
計						228,600

- (注) 1. 取締役 小幡績は、社外取締役にあります。  
2. 監査役 松田勉及び佐々木伸悟は、社外監査役にあります。  
3. 2026年5月28日開催の定時株主総会の終結の日から1年間  
4. 2023年5月25日開催の定時株主総会の終結の日から4年間

#### 社外役員の状況

当社は、2026年5月28日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として、「取締役9名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されますと、当社の社外取締役は取締役9名中1名、社外監査役は監査役3名中2名となります。当社と当社の社外取締役及び社外監査役との間には、特別な利害関係はありません。

社外取締役の小幡績氏は行動ファイナンス及び企業金融を専門とする経済学者として幅広い知見を有するものであります。

また、社外監査役として松田勉氏、佐々木伸悟氏の2名を選任しております。

松田勉氏は、東京国税局における豊富な実務経験と高度な専門知識を有し、また、税理士としての幅広い見識を有するものであります。

佐々木伸悟氏は、公認会計士及び税理士の資格を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

当社は、社外取締役または社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、月1回開催される取締役会および臨時で開催される取締役会に出席し、当社の業務執行に携わらない客観的・中立的な立場から経営判断に資する役割を担うほか、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保する役割を担っております。

社外監査役は、年5回以上開催される定例の監査役会に出席し意見交換を図るとともに、月1回開催される取締役会および臨時で開催される取締役会に参加し、取締役の職務執行状況および意思決定について監督しております。また、会計監査人とも定期的な会合を持つことで、監査結果や会計上の諸課題について意見交換を行い、財務報告の信頼性および資産の保全状況等についての確認も行っております。

なお、内部統制部門との関係につきましては、「(3) 監査の状況 内部監査の状況」に記載のとおりであります。

### (3) 【監査の状況】

#### 監査役監査の状況

当社における監査役監査は、監査役会制度を採用しており、常勤監査役1名と社外監査役である2名の非常勤監査役で構成されております。

監査役3名は、監査役会で策定した監査計画に基づき、取締役会等重要な会議に出席し、取締役による経営状況および各部門の業務執行状況、取締役の職務執行並びに意思決定について適切に監督しております。また、グループ監査部からは随時内部監査の実施状況に係る報告を受けるほか、会計監査人を含め積極的な情報交換や多面的な観点からの意見交換を行うことでそれぞれの監査が適切に機能する体制を整えております。

なお、常勤監査役の大谷木進氏は、当社において人事、施設開発、財務、経営企画などの実務を幅広く経験し、当該業務に関する相当程度の知見を有するものであります。また、社外監査役として松田勉氏、佐々木伸悟氏、の2名を選任しております。松田勉氏は、東京国税局における豊富な実務経験と高度な専門知識を有し、また、税理士としての幅広い見識を有するものであります。佐々木伸悟氏は公認会計士及び税理士の資格を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

当事業年度において当社は監査役会を9回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
大谷木 進	9回	9回
松田 勉	9回	8回
佐々木 伸悟	9回	8回

監査役会における具体的な検討内容としては、監査の方針及び監査計画、内部統制システムの整備・運用状況、各四半期における会計監査人とのレビュー内容を含む意見交換等であります。

また、常勤監査役の活動として、取締役等との意思疎通、取締役会その他重要会議への出席、重要な決算書類の閲覧、子会社の取締役との意思疎通・情報交換、内部監査部門との連携等を行っております。

#### 内部監査の状況

内部監査につきましては、代表取締役直轄の部署として本有価証券報告書提出日現在4名で構成されるグループ監査部を設置しております。グループ監査部は、「市進グループ内部監査規程」に基づき、当社グループの業務執行状況及び各制度について、法令遵守や効率性・合理性等の観点から監査しております。内容としては、当社の代表取締役の承認を受けた年次監査計画に基づく監査、必要に応じて実施する特命監査、各業務プロセスにおける内部統制システムが正しく運用されているかを評価する内部統制システム監査を実施しております。

監査結果については、当社の代表取締役、取締役、監査役、執行役員並びに被監査部門長に報告を行い、監査の連携を図っております。また、被監査部門に対しては必要な改善勧告を行い、内部統制システム監査におけるリスク統制が不十分であると評価した場合には、内部統制システムの再構築を行い、管理の統括部門に結果報告をするとともに、プロセスの是正または業務手順の徹底を要請しております。なお、その後の統制状況につきましては、フォローアップ監査によって確認をする体制を構築しております。

監査役会とグループ監査部は、定期的に会議を実施し、社内各部署の法令遵守の状況及び問題点と課題を相互に把握し、監査機能の強化を図っているほか、会計監査人と認識を共通にするために三者合同での会議や打合せを適宜実施し、連携を図っております。

また、当社では、法令遵守に基づく活動を行うべく、顧問弁護士及び弁護士法人への相談体制も整えており、本格的なコンプライアンス体制の確立に向けてさらなる努力を継続しております。さらに、従業員が法令違反その他コンプライアンスに関する重要な事実を発見した際には、直接、通報や相談することのできる制度「コンプライアンス・インフォメーション・システム」により、経営者へのより適切な報告体制を確保しております。

個人情報保護に関しましては、個人情報保護委員会を組織し、定例的な会議を通して、社内各部署の業務が個人情報保護規程に基づき適正に行われているかを確認しております。

会計監査の状況

イ．監査法人の名称

太陽有限責任監査法人

ロ．継続監査期間

15年

ハ．業務を執行した公認会計士

本間 洋一

石川 資樹

ニ．監査業務に係る補助者の構成

会計監査業務に係わる補助者は、公認会計士7名、その他20名であります。

ホ．監査法人の選定方針と理由

当社は会計監査人の選任・再任に際し、監査法人の品質管理体制、独立性および専門性に問題がない点、当社の業務内容に対応して効率的な監査計画や監査チームが編成できる点、また監査業務に対する監査報酬が合理的かつ妥当である点を勘案し、総合的に判断しております。

なお、監査役会は、会計監査人の職務遂行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査役会は会計監査人が会社法第340条第1号各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

ヘ．監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、現監査法人と適宜意見交換を行い、提供されている監査品質は当社が期待する一定水準を保持しているものと評価しております。

監査報酬の内容等

イ．監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	28,100	-	32,500	-
計	28,100	-	32,500	-

ロ．監査公認会計士等と同一のネットワーク（Grant Thorntonのメンバーファーム）に対する報酬（イ．を除く）

該当事項はありません。

ハ．その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

ニ．監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、当社の規模及び監査日数等を勘案し、監査役会の同意を得て代表取締役が決定しております。

ホ．監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の報酬について、監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況および報酬見積額が当社の事業規模・内容に沿ったものであるかどうかについて確認の上で、報酬等の額について同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

イ．取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社は取締役の報酬について、以下の方針を取締役会で決議しております。

当社の取締役（社外取締役を含む。）の報酬は、株主総会にて決議された報酬限度額の範囲内で、各種統計調査に基づく会社規模・世間相場の水準等を参考として、役職位ごとのテーブルを定め、その範囲内で、取締役会の決議により一任された代表取締役会長下屋俊裕と代表取締役社長福住一彦の代表者2名が、各取締役の代表権の有無、兼務する会社の有無などの職責と業績を勘案した上で決定しております。監査役（社外監査役を含む。）については、職務内容、経験及び当社の状況等を総合的に勘案した上で監査役の協議により決定しております。いずれも、固定報酬としての基本報酬と中長期的インセンティブとしての株式報酬により構成しております。株式報酬につきましては、取締役に対しては、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、対象役員と株主の皆様との一層の価値共有を高めることを目的として、また監査役に対しては、当社の企業価値の毀損の防止及び信用維持へのインセンティブを付与することを目的として、「譲渡制限付株式報酬制度」を導入しております。「譲渡制限付株式報酬制度」の具体的な支給時期及び配分について、取締役については取締役会にて決定し、監査役については監査役の協議にて決定することとしております。

ロ．取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役の報酬限度額は2010年5月28日定時株主総会において年額250,000千円と決議されております。当決議時点の取締役の員数は5名であります。監査役の報酬限度額は1991年5月28日定時株主総会において年額20,000千円と決議されております。当決議時点の監査役の員数は3名であります。また、譲渡制限付株式報酬制度につきましては、2021年5月28日の定時株主総会で決議されており、当決議時点の取締役の員数は8名であります。

ハ．取締役の個人別の報酬等の内容の決定に係る委任に関する事項

取締役の個人別の報酬等の決定につきましては、取締役会の決議により一任された代表取締役会長下屋俊裕と代表取締役社長福住一彦の代表者2名が、各取締役の代表権の有無、兼務する会社の有無などの職責と業績を勘案した上で決定しております。代表者2名に決定権を委ねるのは、当社グループ全体の業績等を俯瞰しつつ、各取締役の担当部門について評価を行うには代表取締役が最適であると判断したためであります。なお、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬の決定に関しては、上記決定方針に従い、取締役会より一任された代表取締役会長、代表取締役社長の2名が、各取締役の職責、業績等を勘案して決定されたものであることから、個人別報酬は妥当なものであると取締役会は判断しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	非金銭報酬等	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	118,788	106,410	12,378	-	-	6
監査役 (社外監査役を除く)	9,433	9,000	433	-	-	1
社外役員	12,187	11,400	787	-	-	3

(注) 非金銭報酬等の総額の内訳は譲渡制限付株式報酬であり、その割当て対象は、当社の取締役（社外取締役を含む）及び監査役（社外監査役を含む）であります。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、前者は専ら株式の価値の変動または株式に係る配当によって利益を受けることを目的として保有する投資株式に、後者については、それ以外の目的で保有する投資株式に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

イ．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、保有先企業との業務提携による取引関係の維持・強化や商品・サービスの安定供給など経営戦略の一環として、また、金融機関との資金調達等の金融取引を通じた事業の円滑な推進を目的として、必要と判断する企業の株式を政策保有株式として保有しております。

保有する政策保有株式につきましては、保有先企業との関係強化及び取引・協業の円滑化の観点から、保有の必要性を取締役会等で適宜検証し、当社の企業価値向上に寄与するかどうかを判断いたします。個別銘柄の保有の適否につきましては、年間受取配当金、株式の評価損益、1株当たり純資産、経営成績の状況、財政状態などの経済合理性についても総合的に勘案いたします。検証の結果、当社の企業価値向上に寄与しないと判断された場合は当該保有株式の縮減を、投資のさらなる強化が必要と判断された場合は、投資の強化を行ってまいります。

ロ．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	7	80,713
非上場株式以外の株式	4	201,534

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	1	11,376	取引関係の円滑化及び維持強化による将来的な企業価値向上のため

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式以外の株式	1	776,880

## 八．特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

## 特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
株式会社千葉銀行	49,475	49,475	(保有目的) 資金調達等の金融取引を行っている取引金融機関であり、中長期的な事業運営の安定性を目的とした取引関係の強化(定量的な保有効果)(注)2	有
	115,128	66,939		
株式会社早稲田アカデミー	35,500	35,500	(保有目的) 教育サービス事業における業界動向等の情報収集(定量的な保有効果)(注)2	無
	73,307	71,355		
株式会社三井住友フィナンシャルグループ(注)1	1,500	1,500	(保有目的) 資金調達等の金融取引を行っている取引金融機関であり、中長期的な事業運営の安定性を目的とした取引関係の強化(定量的な保有効果)(注)2	無
	8,995	5,688		
株式会社京葉銀行(注)1	1,822	1,822	(保有目的) 資金調達等の金融取引を行っている取引金融機関であり、中長期的な事業運営の安定性を目的とした取引関係の強化(定量的な保有効果)(注)2	有
	4,103	1,501		
株式会社ウィザース	-	240,000		
	-	559,200		

(注)1．貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ですが、上場銘柄すべてについて記載していません。

- 2．特定投資株式における定量的な保有効果の記載が困難であるため、上記「イ．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容」に基づき検証し、保有が適切であると判断しております。

保有目的が純投資目的である投資株式  
該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2025年3月1日から2026年2月28日まで)及び事業年度(2025年3月1日から2026年2月28日まで)に係る連結財務諸表及び財務諸表について、太陽有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社グループは、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。

具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また、各種団体が主催する講習会や研修への参加、会計専門誌の購読等により、積極的に専門知識の蓄積や情報収集活動に努めております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2 4,387,763	2 5,142,682
売掛金	916,939	909,062
契約資産	44,104	50,128
商品及び製品	244,498	207,346
原材料及び貯蔵品	9,749	8,175
未収入金	303,742	150,843
その他	527,741	551,034
貸倒引当金	10,975	11,012
流動資産合計	6,423,563	7,008,261
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	5,230,492	5,292,292
減価償却累計額及び減損損失累計額	3,680,892	3,890,086
建物及び構築物(純額)	2 1,549,599	2 1,402,206
機械装置及び運搬具	189,184	139,057
減価償却累計額及び減損損失累計額	162,984	115,467
機械装置及び運搬具(純額)	26,200	23,589
工具、器具及び備品	1,176,247	1,146,280
減価償却累計額及び減損損失累計額	1,066,249	1,060,844
工具、器具及び備品(純額)	109,997	85,436
土地	2 717,104	2 717,104
リース資産	2,110,412	2,208,524
減価償却累計額及び減損損失累計額	1,633,004	1,803,133
リース資産(純額)	477,407	405,391
建設仮勘定	28,310	45,831
有形固定資産合計	2,908,620	2,679,559
<b>無形固定資産</b>		
のれん	307,717	159,439
映像授業コンテンツ	182,643	227,827
リース資産	2,126	1,504
その他	182,303	188,682
無形固定資産合計	674,791	577,453
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1 907,019	1 355,792
長期貸付金	187,534	144,527
繰延税金資産	597,232	721,767
敷金及び保証金	2 1,677,118	2 1,632,025
その他	1 271,688	1 283,453
投資その他の資産合計	3,640,593	3,137,565
固定資産合計	7,224,004	6,394,578
資産合計	13,647,568	13,402,839

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	10,337	16,963
1年内返済予定の長期借入金	2 1,274,128	2 1,327,337
リース債務	179,305	204,557
未払金及び未払費用	1,439,158	1,638,198
未払法人税等	145,560	232,713
契約負債	443,163	466,183
賞与引当金	307,060	327,015
その他	376,971	271,470
流動負債合計	4,175,684	4,484,440
固定負債		
長期借入金	2 5,238,887	2 4,625,878
リース債務	400,220	292,930
賃借契約損失引当金	-	52,929
退職給付に係る負債	1,202,165	1,040,431
資産除去債務	273,378	269,260
その他	159,930	115,359
固定負債合計	7,274,582	6,396,788
負債合計	11,450,267	10,881,228
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,476,237	1,476,237
資本剰余金	1,244,427	1,240,090
利益剰余金	182,108	729,219
自己株式	1,146,013	1,191,039
株主資本合計	1,756,760	2,254,507
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	396,609	103,898
繰延ヘッジ損益	2,170	3,897
為替換算調整勘定	13,167	13,952
退職給付に係る調整累計額	6,285	116,498
その他の包括利益累計額合計	391,899	210,342
非支配株主持分	48,641	56,761
純資産合計	2,197,301	2,521,610
負債純資産合計	13,647,568	13,402,839

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年 3月 1日 至 2025年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2025年 3月 1日 至 2026年 2月 28日)
売上高	1 18,459,134	1 18,653,429
売上原価	15,381,603	15,570,275
売上総利益	3,077,530	3,083,154
販売費及び一般管理費	2 2,159,257	2 2,183,992
営業利益	918,273	899,161
営業外収益		
受取利息	14,378	20,228
受取配当金	21,941	15,604
持分法による投資利益	-	4,370
自動販売機収入	3,649	3,507
受取補償金	-	9,797
還付消費税等	7,259	-
雑収入	18,524	18,575
営業外収益合計	65,753	72,083
営業外費用		
支払利息	112,441	124,742
持分法による投資損失	750	-
子会社株式取得関連費用	61,215	-
控除対象外消費税等	73,314	80,087
雑損失	16,932	14,195
営業外費用合計	264,654	219,024
経常利益	719,372	752,220
特別利益		
固定資産売却益	3 28	3 512
投資有価証券売却益	-	4 692,750
貸倒引当金戻入額	1,569	-
賃貸借契約解約損戻入益	3,255	-
その他	9,182	5,949
特別利益合計	14,034	699,212
特別損失		
固定資産除却損	5 113,139	5 123,153
減損損失	6 91,357	6 247,637
賃借契約損失引当金繰入額	-	52,929
その他	-	82,126
特別損失合計	204,496	505,845
税金等調整前当期純利益	528,910	945,586
法人税、住民税及び事業税	233,128	307,142
法人税等調整額	33,445	1,773
法人税等合計	199,683	308,915
当期純利益	329,227	636,670
非支配株主に帰属する当期純利益	11,932	8,119
親会社株主に帰属する当期純利益	317,294	628,551

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
当期純利益	329,227	636,670
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	124,553	292,711
繰延ヘッジ損益	3,473	1,726
為替換算調整勘定	343	785
退職給付に係る調整額	5,438	110,212
その他の包括利益合計	122,244	181,557
包括利益	451,471	455,113
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	439,538	446,994
非支配株主に係る包括利益	11,932	8,119

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,476,237	1,244,427	35,643	255,444	2,429,576
当期変動額					
剰余金の配当			99,541		99,541
親会社株主に帰属する当期純利益			317,294		317,294
自己株式の取得				890,569	890,569
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	217,752	890,569	672,816
当期末残高	1,476,237	1,244,427	182,108	1,146,013	1,756,760

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	272,056	1,302	12,823	11,724	269,655	36,709	2,735,941
当期変動額							
剰余金の配当							99,541
親会社株主に帰属する当期純利益							317,294
自己株式の取得							890,569
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	124,553	3,473	343	5,438	122,244	11,932	134,176
当期変動額合計	124,553	3,473	343	5,438	122,244	11,932	538,639
当期末残高	396,609	2,170	13,167	6,285	391,899	48,641	2,197,301

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,476,237	1,244,427	182,108	1,146,013	1,756,760
当期変動額					
剰余金の配当			81,440		81,440
親会社株主に帰属する当期純利益			628,551		628,551
自己株式の取得				90,200	90,200
自己株式の処分		4,336		45,173	40,837
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	4,336	547,110	45,026	497,747
当期末残高	1,476,237	1,240,090	729,219	1,191,039	2,254,507

	その他の包括利益累計額					非支配株主 持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損 益	為替換算調 整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	396,609	2,170	13,167	6,285	391,899	48,641	2,197,301
当期変動額							
剰余金の配当							81,440
親会社株主に帰属する当期純利益							628,551
自己株式の取得							90,200
自己株式の処分							40,837
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	292,711	1,726	785	110,212	181,557	8,119	173,437
当期変動額合計	292,711	1,726	785	110,212	181,557	8,119	324,309
当期末残高	103,898	3,897	13,952	116,498	210,342	56,761	2,521,610

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	528,910	945,586
減価償却費	545,750	541,360
減損損失	91,357	247,637
のれん償却額	60,174	59,624
差入保証金償却額	4,211	6,257
貸倒引当金の増減額（は減少）	9,310	36
賞与引当金の増減額（は減少）	44,061	19,954
賃借契約損失引当金の増減額（は減少）	-	52,929
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	38,387	51,521
受取利息及び受取配当金	36,319	35,833
支払利息	112,441	124,742
受取補償金	-	9,797
固定資産売却損益（は益）	28	512
賃貸借契約解約損戻入益	3,255	-
固定資産除却損	113,139	123,153
投資有価証券売却損益（は益）	-	692,750
持分法による投資損益（は益）	750	4,370
売上債権及び契約資産の増減額（は増加）	42,591	1,852
棚卸資産の増減額（は増加）	27,770	38,726
仕入債務の増減額（は減少）	1,117	6,626
未払金及び未払費用の増減額（は減少）	69,437	189,620
契約負債の増減額（は減少）	22,922	23,019
前払費用の増減額（は増加）	36,498	25,340
未収入金の増減額（は増加）	37,850	63,648
未払消費税等の増減額（は減少）	41,744	3,249
その他	77,807	32,599
小計	1,260,323	1,654,002
利息及び配当金の受取額	36,319	35,833
利息の支払額	108,136	120,594
補償金の受取額	-	9,797
法人税等の支払額又は還付額（は支払）	934	213,874
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,189,440	1,365,164
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額（は増加）	36,014	34,262
有形固定資産の売却による収入	28	512
有形固定資産の取得による支出	297,930	261,842
無形固定資産の取得による支出	76,887	92,837
映像授業コンテンツの制作による支出	51,299	111,654
投資有価証券の取得による支出	84,515	21,376
投資有価証券の売却による収入	-	776,880
長期貸付金の回収による収入	48,100	51,800
敷金及び保証金の差入による支出	34,632	26,295
敷金及び保証金の回収による収入	27,017	15,722
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	248,920	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	12,166	-
その他	20,293	16,156
投資活動によるキャッシュ・フロー	763,181	280,488

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年 3月 1日 至 2025年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2025年 3月 1日 至 2026年 2月 28日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額（は減少）	6,326	-
長期借入れによる収入	2,000,000	750,000
長期借入金の返済による支出	1,179,082	1,309,302
自己株式の取得による支出	891,636	90,466
配当金の支払額	99,642	81,286
リース債務の返済による支出	180,155	195,542
財務活動によるキャッシュ・フロー	356,843	926,598
現金及び現金同等物に係る換算差額	362	1,602
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	69,052	720,656
現金及び現金同等物の期首残高	3,337,525	3,406,577
現金及び現金同等物の期末残高	1 3,406,577	1 4,127,234

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社 24社

株式会社市進

株式会社市進東京

株式会社NPS成田予備校

有限会社龍馬進学研究会

株式会社個学舎

株式会社茨進ホールディングス

株式会社茨進

有限会社敬愛

株式会社ライブコアサポート

株式会社市進ラボ

株式会社ウイングネット

ジャパンライム株式会社

株式会社アイウイングトラベル

株式会社江戸カルチャーセンター

株式会社いちしんウエルフェア

株式会社ゆい

トップケアサイエンス有限会社

株式会社いちしんウエルフェアちば

株式会社市進アシスト

株式会社IGH

株式会社市進コンサルティング

ICHISHIN INDIA CONSULTANT PRIVATE LIMITED

香港市進有限公司

新譽有限公司

(注) 当連結会計年度において有限会社錦秋会は、株式会社いちしんウエルフェアちばへと商号を変更しております。

非連結子会社 2社

市進櫻華(北京)国際教育諮詢有限公司

駿和国際教育服務(深圳)有限公司

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

## 2. 持分法の適用に関する事項

### (1) 持分法を適用した関連会社 2社

持分法を適用した関連会社のうち主要な会社等の名称

株式会社GIビレッジ

株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY

### (2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

市進櫻華（北京）国際教育諮詢有限公司

駿和国際教育服務（深圳）有限公司

株式会社東京グローバルアカデミー

株式会社AML植物研究所

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない会社は、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

### (3) 持分法の適用の手続について特に記載する必要があると認められる事項

持分法を適用している会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

## 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、ICHISHIN INDIA CONSULTANT PRIVATE LIMITEDの決算日は3月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。なお、その他の連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

## 4. 会計方針に関する事項

### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

持分法を適用していない非連結子会社株式

移動平均法に基づく原価法によっております。

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法に基づく原価法によっております。

棚卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商品及び製品

先入先出法

仕掛品

個別法による原価法

原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。但し、1998年4月1日以後取得の建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以後取得の建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 8～60年

機械装置及び運搬具 2～5年

工具、器具及び備品 3～20年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法、映像授業コンテンツについては、見積サービス提供期間（5年以内）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却と同一の方法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収の可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づく、当連結会計年度の負担額を計上しております。

賃借契約損失引当金

不動産賃借契約の解約不能期間において発生すると見込まれる損失に備えて、契約期間満了まで活用ができない可能性が高いと判断した部分の賃借料相当の見積額を計上しています。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12～14年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日次連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

小規模企業等における簡便法の採用

当社及び一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

教育サービス事業

当社グループでは、教育サービス事業において、主として日本の顧客に対して、学習塾などの教育サービスの提供を行っております。学習塾などの教育サービスの提供については、契約期間にわたり均一のサービスを提供するものであるため、時の経過に応じて履行義務が充足されると判断しており、役務を提供する期間にわたり収益を認識しております。

介護福祉サービス事業

当社グループでは、介護福祉サービス事業においては、主として日本の顧客に対して、デイサービス事業やサービス付高齢者向け住宅、認知症グループホームなどの介護施設の運営、また訪問介護や訪問看護等を行っております。いずれのサービスも、契約期間にわたり均一のサービスを提供するものであるため、時の経過に応じて履行義務が充足されると判断しており、役務を提供する期間にわたり収益を認識しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

主として繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を行っております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

（ヘッジ手段）金利スワップ

（ヘッジ対象）借入金の利息

ヘッジ方針

当社は借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象の対応関係を確認することにより、有効性を評価しております。

ただし、金利スワップについては、特例処理の要件に該当すると判定される場合には、有効性の判定は省略しております。

(8) のれんの償却方法及び償却期間

5～10年で均等償却しております。

ただし、金額が僅少な場合は発生時に一括償却しております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続

譲渡制限付株式報酬制度

当社グループの譲渡制限付株式報酬制度に基づき、当社及び当社子会社の取締役並びに当社の監査役に支給した報酬等については、対象勤務期間にわたって費用処理しております。

(重要な会計上の見積り)

1. のれんの評価

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した額

連結貸借対照表において、のれんを前連結会計年度307,717千円、当連結会計年度159,439千円計上しております。主な内訳は以下の連結子会社の持分取得や事業譲受の際に生じたものであります。

(千円)

連結子会社・事業	前連結会計年度	当連結会計年度
旧株式会社プレジャー・コム	48,786	-
トップケアサイエンス有限公司	49,005	42,942
旧株式会社時の生産物	36,219	-
HSG事業譲受	26,555	18,588
旧紙ふうせん株式会社	18,605	11,163
株式会社ゆい	17,048	13,901
株式会社ライブコアサポート	81,344	72,305
有限会社龍馬進学研究会	21,455	-

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

のれんは定期的に償却しておりますが、のれんを含む資産グループに減損の兆候があると認められる場合に、資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識の要否を判定する必要があります。判定の結果、減損損失の認識が必要と判定された場合には、帳簿価額を回収可能価額にまで減額し、当期減少額を減損損失として計上しております。

減損の兆候には、営業活動から生じる損益等が継続してマイナスとなっている場合のほか、事業に関連する経営環境の著しい悪化が生じた場合、あるいはそのような見込みがある場合等が含まれます。なお、当連結会計年度においては、将来の回収可能性を慎重に検討した結果、教育サービス事業では、教室の統廃合などによりのれん未償却残高25,578千円を、介護福祉サービス事業においては、地域密着型通所介護事業から訪問介護事業へ、主要業態の方針転換があったことなどから、のれん未償却残高63,074千円を減損損失として計上しております。その他の連結子会社においては、営業利益を計上し、今後も当初計画どおりの将来キャッシュ・フローを獲得できる見込みであることから、減損の兆候はないと判断しております。

のれんの帳簿価額には、各連結子会社の買収時点における将来の事業の成長見込に基づいた超過収益力を反映しております。このため、これらののれんを含む資産グループの営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなっていない場合であっても、各連結子会社の買収時点で見込んでいた将来の事業の成長が達成されない場合や事業計画の前提となった経営環境に著しい悪化が見込まれた場合、あるいはそのような見込みがある場合には、減損の兆候があると認められ、減損損失の認識の判定が必要になる可能性があります。減損の判定に用いられる将来キャッシュ・フローの見積りは、教育サービス事業においては在籍生徒数の推移などから、介護福祉サービス事業においては、施設利用者数の推移などから算定した事業計画を基礎として行っております。

なお、翌連結会計年度において、経営環境の著しい悪化等によって見積りにおいて用いた仮定の見直しが必要になった場合、連結財務諸表において認識するのれんの金額に重要な影響を与える可能性があります。

## 2. 固定資産評価

### (1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した額

	(千円)	
	前連結会計年度	当連結会計年度
有形固定資産	2,908,620	2,679,559
無形固定資産	674,791	577,453

### (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、主として学習塾事業などの教育サービス事業、デイサービスやグループホームなどの介護福祉サービス事業を営んでおり、減損判定においては、各校舎や各施設をキャッシュ・フローを生み出す最少の独立した単位として資産をグルーピングし、営業活動から生ずる損益が2期連続でマイナスの場合、あるいは移転・閉鎖の意思決定が行われた場合は減損の兆候を把握しております。減損の認識の判定にあたっては、減損の兆候が把握された各拠点の将来キャッシュ・フローを見積り、割引前将来キャッシュ・フロー合計が対象拠点に係る固定資産の帳簿価額を下回るものについて、減損損失を認識しております。減損の対象となった資産グループについては、帳簿価額を正味売却価額又は使用価値まで減額し、当該減少額を減損損失として認識しております。

当連結会計年度においては、連結損益計算書に関する注記に記載のとおり、帳簿価額が回収可能性を下回る資産について減損損失247,637千円を計上しております。

各拠点の割引前将来キャッシュ・フローの見積りは、教室であれば各教室の生徒数予測、生徒数増加に伴い予定する講師の採用などの変動費用、各教室が主力とするエリアの受験ニーズなどの仮定に基づいており、今後の市場の動向や会社が実施予定の施策により大きく影響を受ける可能性があり、不確実性を伴うものであります。

翌連結会計年度において、経営環境の著しい悪化等によって見積りにおいて用いた仮定の見直しが必要になった場合、連結財務諸表において認識する固定資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

## 3. 繰延税金資産

### (1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した額

前連結会計年度の連結貸借対照表において、繰延税金資産597,232千円を計上しております。

当連結会計年度の連結貸借対照表において、繰延税金資産721,767千円を計上しております。

### (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

繰延税金資産は、「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号)に定める会社分類に基づき、当連結会計年度末における将来減算一時差異及び税務上の繰越欠損金に対して、当社のビジネスモデル及び事業計画の作成年数を考慮し、スケジューリング可能な範囲内で計上しております。計上にあたっては、事業計画に基づく将来課税所得の見積りを行っております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に用いられる将来の課税所得の発生額の見積りは、教育サービス事業においては在籍生徒数の推移などから、介護福祉サービス事業においては、施設利用者数の推移などから算定した事業計画を基礎として行っております。

翌連結会計年度において、経営環境の著しい悪化等によって見積りにおいて用いた仮定の見直しが必要になった場合、連結計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

( 会計方針の変更 )

( 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用 )

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」( 企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。 ) 等を当連結会計年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分( その他の包括利益に対する課税 ) に関する改正については、2022年改正会計基準第20 - 3 項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」( 企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。 ) 第65 - 2 項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当連結会計年度の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(未適用の会計基準等)

(リースに関する会計基準等)

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日)

ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正

(1)概要

国際的な会計基準と同様に、借手のすべてのリースについて資産・負債を計上する等の取扱いを定めるもの。

(2)適用予定日

2029年2月期の期首から適用予定であります。

(3)当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「特別利益」の「原状回復費戻入益」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替を行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別利益」の「原状回復費戻入益」に表示していた9,182千円は、「その他」9,182千円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「原状回復費戻入益」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「原状回復費戻入益」9,182千円は、「その他」9,182千円として組み替えております。

## (連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
投資有価証券(株式)	122,988千円	73,534千円
その他(出資金)	8,452	8,452
合計	131,440	81,986

2 担保に供している資産並びに担保付債務は次のとおりであります。

## (担保に供している資産)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
現金及び預金	50,000千円	50,000千円
建物及び構築物	115,941	112,168
土地	156,432	156,432
敷金及び保証金	-	61,654
合計	322,374	380,255

## (上記に対応する債務)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
1年内返済予定の長期借入金	29,988千円	880,329千円
長期借入金	20,945	2,958,042
合計	50,933	3,838,371

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区別して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(セグメント情報等)」に記載しております。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
広告宣伝費	493,979千円	527,660千円
給料及び手当	486,104	519,757
賞与引当金繰入額	78,448	72,408
退職給付費用	24,939	20,703
貸倒引当金繰入額	4,246	7,185

3 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
機械装置及び運搬具	28千円	512千円

4 投資有価証券売却益

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

当連結会計年度において、当社の保有する政策保有株式1銘柄について、公開買付けに応募したことに伴い投資有価証券売却益を計上しております。

5 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
建物及び構築物	22,938千円	12,518千円
機械装置及び運搬具	105	0
工具、器具及び備品	1,365	1,219
無形固定資産	-	188
取壊撤去費用等	88,730	109,226

## 6 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）

用途	種類	場所
事業用	建物	東京都国分寺市、千葉県船橋市等

当社グループは、保有する資産を事業用及び共用に区分し、事業用資産については個々の拠点をグルーピングの単位としております。

既存の営業拠点その他について、厳密に資産性を考慮し、業績低迷などにより収益性が悪化している資産グループや売却予定の所有資産について減損損失を認識いたしました。その結果、当該資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失91,357千円として特別損失に計上しました。その内訳は建物及び構築物81,051千円、工具、器具及び備品8,815千円、有形その他1,490千円であります。

なお、上記資産グループの回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額としております。正味売却価額は、不動産鑑定評価等に基づき算定し、使用価値は、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため零として算定しております。

当連結会計年度（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）

用途	種類	場所
事業用	建物	東京都江東区、千葉県千葉市等
その他	のれん	

当社グループは、保有する資産を事業用及び共用に区分し、事業用資産については個々の拠点をグルーピングの単位としております。

既存の営業拠点その他について、厳密に資産性を考慮し、業績低迷などにより収益性が悪化している資産グループや売却予定の所有資産について減損損失を認識いたしました。その結果、当該資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失247,637千円として特別損失に計上しました。その内訳は建物及び構築物145,182千円、工具、器具及び備品12,745千円、有形その他1,055千円であります。

のれんについては、将来の回収可能性を慎重に検討した結果、教育サービス事業では、教室の統廃合などによりのれん未償却残高25,578千円を、介護福祉サービス事業においては、地域密着型通所介護事業から訪問介護事業へ、主要業態の方針転換があったことなどから、のれん未償却残高63,074千円を減損損失として計上しております。

なお、上記資産グループの回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額としております。正味売却価額は、不動産鑑定評価等に基づき算定し、使用価値は、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため零として算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	179,224千円	273,730千円
組替調整額	-	692,750
法人税等及び税効果調整前	179,224	419,019
法人税等及び税効果額	54,671	126,308
その他有価証券評価差額金	124,553	292,711
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	3,473	1,726
為替換算調整勘定		
当期発生額	343	785
退職給付に係る調整額		
当期発生額	11,722	107,784
組替調整額	6,284	2,428
退職給付に係る調整額	5,438	110,212
その他の包括利益合計	122,244	181,557

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首株 式数(株)	当連結会計年度増加株 式数(株)	当連結会計年度減少株 式数(株)	当連結会計年度末株式 数(株)
普通株式	10,604,888	-	-	10,604,888

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首株 式数(株)	当連結会計年度増加株 式数(株)	当連結会計年度減少株 式数(株)	当連結会計年度末株式 数(株)
普通株式	650,693	1,810,100	-	2,460,793

(変動事由の概要)

取締役会決議による自己株式の取得による増加 1,810,100株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2024年4月9日 取締役会	普通株式	99,541	10.00	2024年2月29日	2024年5月16日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2025年4月8日 取締役会	普通株式	利益剰余金	81,440	10.00	2025年2月28日	2025年5月15日

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首株 式数(株)	当連結会計年度増加株 式数(株)	当連結会計年度減少株 式数(株)	当連結会計年度末株式 数(株)
普通株式	10,604,888	-	-	10,604,888

## 2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首株 式数(株)	当連結会計年度増加株 式数(株)	当連結会計年度減少株 式数(株)	当連結会計年度末株式 数(株)
普通株式	2,460,793	200,000	97,000	2,563,793

## (変動事由の概要)

取締役会決議による自己株式の取得による増加 200,000株

譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による減少 97,000株

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2025年4月8日 取締役会	普通株式	81,440	10.00	2025年2月28日	2025年5月15日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2026年4月14日 取締役会	普通株式	利益剰余金	80,410	10.00	2026年2月28日	2026年5月14日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
現金及び預金勘定	4,387,763千円	5,142,682千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	981,185	1,015,448
現金及び現金同等物	3,406,577	4,127,234

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

株式の取得により新たに株式会社ライブコアサポートを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。

	(千円)
流動資産	147,894
固定資産	288,397
のれん	90,382
流動負債	136,335
固定負債	64,849
株式の取得価額	325,488
現金及び現金同等物	94,900
差引:株式取得による支出	230,588

また、その他当連結会計年度において株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の金額は、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

・無形固定資産

主として、映像事業に関わるサポートシステム(ソフトウェア)であります。

リース資産の減価償却の方法

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

・有形固定資産

主として、茨城物件のセール・アンド・リースバック取引に係るリース資産及び映像事業におけるパソコン(工具、器具及び備品)並びにサーバー・ネットワーク機器(工具、器具及び備品)であります。

・無形固定資産

主として、生徒在籍管理・収納管理システム(ソフトウェア)及び会計情報システム(ソフトウェア)であります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
1年内	167,077	156,835
1年超	836,580	679,744
合計	1,003,657	836,580

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については一時的な余資を安全性の高い金融資産で運用し、また設備投資資金を銀行借入により調達しております。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は顧客等の信用リスクに晒されております。投資有価証券は主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動等のリスクに晒されております。長期貸付金は関係会社等への貸付金であり、貸付先の信用リスクに晒されております。敷金及び保証金は主に教場の賃借契約に基づくものであり貸主の信用リスクに晒されております。なお、敷金及び保証金は解約時に返還されるものであります。

営業債務である買掛金はそのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

長期借入金は、運転資金及び設備投資に必要な資金調達を目的としたものであり、資金調達に係る金利リスク及び流動性リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、変動金利の借入金の金利変動リスク回避のための金利スワップ取引を行っております。なお、ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針及びヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)4. 会計方針に関する事項(7) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク

当社グループは、営業債権について取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、回収懸念の早期把握及び対応を行い、リスクの軽減を図っております。

長期貸付金については、貸付先の財務状況を定期的に把握し、早期にリスクの軽減を図っております。

市場リスク等

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

借入金のうち、一部の長期借入金については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用しております。

資金調達に係る流動性リスク

当社グループは、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に関する市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2025年2月28日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 投資有価証券			
その他有価証券	704,684	704,684	-
(2) 長期貸付金	187,534	172,485	15,049
(3) 敷金及び保証金	1,677,118	1,298,542	378,575
資産計	2,569,336	2,175,711	393,624
(1) 長期借入金	6,513,015	6,514,830	1,815
(2) リース債務	579,526	579,526	-
負債計	7,092,541	7,094,356	1,815
デリバティブ取引(*3)	2,170	2,170	-

(\*1)「現金及び預金」「売掛金」「未収入金」「買掛金」「未払金及び未払費用」「未払法人税等」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(\*2)市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)
非上場株式	202,335

(\*3)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で、正味の債務となる項目については、( )で示しています。

当連結会計年度(2026年2月28日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 投資有価証券			
その他有価証券	201,534	201,534	-
(2) 長期貸付金	144,527	148,178	3,651
(3) 敷金及び保証金	1,632,025	1,200,444	431,580
資産計	1,978,087	1,550,157	427,929
(1) 長期借入金	5,953,215	5,945,111	8,103
(2) リース債務	497,487	497,487	-
負債計	6,450,702	6,442,599	8,103
デリバティブ取引(*3)	3,897	3,897	-

(\*1)「現金及び預金」「売掛金」「未収入金」「買掛金」「未払金及び未払費用」「未払法人税等」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(\*2)市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	当連結会計年度 (2026年2月28日)
非上場株式	154,257

(\*3)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で、正味の債務となる項目については、( )で示しています。

(注) 1. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(2025年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,387,763	-	-	-
売掛金	916,939	-	-	-
未収入金	303,742	-	-	-
長期貸付金	-	186,284	-	1,250
敷金及び保証金	8,352	27,881	4,340	-

敷金及び保証金については、返還期日が明確に把握できるものを表示しております。

当連結会計年度(2026年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	5,142,682	-	-	-
売掛金	909,062	-	-	-
未収入金	150,843	-	-	-
長期貸付金	-	142,183	-	2,344
敷金及び保証金	8,352	23,869	-	-

敷金及び保証金については、返還期日が明確に把握できるものを表示しております。

(注) 2. 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2025年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	1,274,128	1,241,441	1,147,196	1,020,152	811,193	1,018,905
リース債務	179,305	181,883	175,658	21,678	14,515	6,483
合計	1,453,433	1,423,324	1,322,854	1,041,830	825,708	1,025,388

当連結会計年度(2026年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	1,327,337	1,233,092	1,106,048	897,089	513,941	875,708
リース債務	204,557	198,825	41,807	26,818	12,141	13,336
合計	1,531,894	1,431,917	1,147,855	923,907	526,082	889,044

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2025年2月28日）

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	704,684	-	-	704,684
資産計	704,684	-	-	704,684
デリバティブ取引	-	2,170	-	2,170

当連結会計年度（2026年2月28日）

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	201,534	-	-	201,534
資産計	201,534	-	-	201,534
デリバティブ取引	-	3,897	-	3,897

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度(2025年2月28日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期貸付金	-	172,485	-	172,485
敷金及び保証金	-	1,298,542	-	1,298,542
資産計	-	1,471,027	-	1,471,027
長期借入金	-	6,514,830	-	6,514,830
リース債務	-	579,526	-	579,526
負債計	-	7,094,356	-	7,094,356

当連結会計年度(2026年2月28日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期貸付金	-	148,178	-	148,178
敷金及び保証金	-	1,200,444	-	1,200,444
資産計	-	1,348,622	-	1,348,622
長期借入金	-	5,945,111	-	5,945,111
リース債務	-	497,487	-	497,487
負債計	-	6,442,599	-	6,442,599

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

デリバティブ取引

金利スワップの時価は、金利の観察可能なインプットを用いて割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

なお、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

長期貸付金

長期貸付金は主に関係会社貸付金であり、その時価については信用リスクが僅少であるため、回収予定額を契約期間に対する国債の利回り等適切な指標に基づく利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価は、返還予定時期を過去実績から見積り、返還までの期間に対応した国債利回り等適切な利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

リース債務

リース債務の時価は、元利金の合計額を新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## (有価証券関係)

## 1. その他有価証券

前連結会計年度(2025年2月28日)

区分	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	704,684	135,440	569,243
	小計	704,684	135,440	569,243
合計		704,684	135,440	569,243

当連結会計年度(2026年2月28日)

区分	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	201,534	51,311	150,223
	小計	201,534	51,311	150,223
合計		201,534	51,311	150,223

## 2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)
株式	776,880	692,750
合計	776,880	692,750

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(2025年2月28日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
原則的処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	165,000	135,000	2,170
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	145,182	85,206	(注)
合計			310,182	220,206	2,170

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2026年2月28日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
原則的処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	135,000	105,000	3,897
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	85,206	33,480	(注)
合計			220,206	138,480	3,897

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、従業員に対し退職金規程に基づく確定給付型の退職一時金制度及び確定拠出年金制度を設けております。

当社及び連結子会社の一部の退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
退職給付債務の期首残高	1,077,923千円	1,069,013千円
勤務費用	67,967	64,593
利息費用	4,664	5,642
数理計算上の差異の発生額	11,722	107,784
退職給付の支払額	93,264	128,687
退職給付債務の期末残高	1,069,013	902,777

(2) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
退職給付に係る負債の期首残高	112,768千円	133,151千円
新規連結子会社の取得に伴う増加	16,952	-
退職給付費用	12,890	10,897
退職給付の支払額	9,460	6,395
退職給付に係る負債の期末残高	133,151	137,653

(3) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
非積立型制度の退職給付債務	1,202,165千円	1,040,431千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,202,165	1,040,431
退職給付に係る負債	1,202,165	1,040,431
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,202,165	1,040,431

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
勤務費用	67,967千円	64,593千円
利息費用	4,664	5,642
数理計算上の差異の費用処理額	9,466	10,171
過去勤務費用の費用処理額	15,751	12,599
簡便法で計算した退職給付費用	12,890	10,897
割増退職金等その他	10,815	2,080
確定給付制度に係る退職給付費用	102,621	85,642

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
過去勤務費用	15,751千円	12,599千円
数理計算上の差異	21,189	97,613
合計	5,438	110,212

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
未認識過去勤務費用	22,031千円	9,432千円
未認識数理計算上の差異	28,317	125,930
合計	6,285	116,498

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
割引率	0.37%	1.89%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度46,720千円、当連結会計年度51,219千円であります。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 ( 2025年 2月28日 )	当連結会計年度 ( 2026年 2月28日 )
	( 千円 )	( 千円 )
<b>繰延税金資産</b>		
退職給付に係る負債	370,891	363,962
減損損失	113,917	110,525
賞与引当金	103,586	106,995
税務上の繰越欠損金(注)	864,608	695,712
その他	567,175	551,090
繰延税金資産小計	2,020,179	1,828,287
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	627,100	476,293
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	575,877	543,382
評価性引当額小計	1,202,978	1,019,676
繰延税金資産合計	817,200	808,610
<b>繰延税金負債</b>		
投資有価証券評価差額	172,633	46,325
資産除去債務	20,919	18,772
その他	26,415	21,746
繰延税金負債合計	219,967	86,843
繰延税金資産の純額	597,232	721,767

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度 ( 2025年 2月28日 )

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金 (a)	29,104	16,561	42,871	-	477,015	299,056	864,608千円
評価性引当額	29,066	16,561	-	-	282,417	299,056	627,100 "
繰延税金資産	37	-	42,871	-	194,598	-	(b)237,507 "

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金864,608千円 (法定実効税率を乗じた額) について、繰延税金資産237,507千円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより回収可能と判断し、評価性引当額を認識しておりません。

当連結会計年度（2026年2月28日）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金 (a)	15,555	42,053	-	326,247	71,609	240,247	695,712千円
評価性引当額	15,294	41,742	-	107,399	71,609	240,247	476,293 "
繰延税金資産	260	310	-	218,847	-	-	(b)219,419 "

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金695,712千円（法定実効税率を乗じた額）について、繰延税金資産219,419千円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより回収可能と判断し、評価性引当額を認識しておりません。

2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
法定実効税率 (調整)	30.46 %	30.46 %
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.97	14.56
住民税均等割	4.90	2.85
のれん償却	3.47	1.92
子会社税率差異	10.84	5.34
評価性引当額の増減額	1.01	23.70
法人税等還付税額	5.53	0.12
その他	4.40	1.36
税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.75	32.67

3．法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社及び一部の国内連結子会社は、グループ通算制度を適用しており、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

4．法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（令和7年法律第13号）が2025年3月31日に国会で成立し、2026年4月1日以後開始する連結会計年度より「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2027年3月1日以後開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債を計算する法定実効税率は30.46%から31.36%に変更されます。

なお、この税率変更による影響額は軽微であります。

(資産除去債務関係)

1. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

教室、事務所等の貸室賃貸借契約に基づく退去時における原状回復にかかる債務で、現時点においてその債務に関する履行時期および金額が過去の実績から合理的に見積り可能な一部の債務につき資産除去債務を計上しております。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年～30年と見積もり、割引率は0.1～3.3%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
期首残高	229,230千円	273,378千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	2,971	6,448
時の経過による調整額	4,304	4,147
新規連結子会社の取得に伴う増加額	52,171	-
資産除去債務の履行による減少額	15,299	14,714
期末残高	273,378	269,260

2. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上していないもの

当社グループは不動産賃貸借契約に基づき使用する教室、事務所等につきまして、退去時における原状回復に係る債務を有している物件があります。原状回復に係る債務が認識される固定資産のうち、新規に設置しました空調設備と給排水設備(主にトイレ)につきましては、撤去せずに設備として残置可能なケースが多々ある点、ビルの築年数、構造やグレード、後続テナントの状況などから当初の賃貸借契約内容に関わらず、賃貸人との協議により原状回復工事が減免されるケースがあるなど、変動要素が多岐にわたることから原状回復工事費用を合理的に見積もることができないため、当該債務に対応する資産除去債務を計上しておりません。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位:千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権(期首残高)	835,779	916,939
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	916,939	909,062
契約資産(期首残高)	21,804	44,104
契約資産(期末残高)	44,104	50,128
契約負債(期首残高)	420,240	443,163
契約負債(期末残高)	443,163	466,183

契約資産は、各種映像制作に関する法人との受託契約について期末日時点で進行中であり完成未了の制作物について、その対価に対する連結子会社の権利に関するものであります。契約資産は、各種映像制作に関する受託先の法人に成果物を納品した時点で顧客との契約から生じた債権に振り替えられます。当該各種映像制作に関する対価は、各種映像制作に関する法人との受託契約に従い、成果物納品後に請求し、受領しております。

契約負債は、主には、顧客からの前受金に関連するものであります。契約負債は収益の認識に伴い取り崩されます。

前連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は420,240千円であります。

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は443,163千円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用し、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業領域を基礎としたセグメントから構成されており、「教育サービス事業」、「介護福祉サービス事業」の2つを報告セグメントとしております。

「教育サービス事業」においては、小学生から高校生までを対象とした「市進学院」「個太郎塾」「茨進」等の学習塾の他、小学校受験の「桐杏学園」、学童保育の「ナナカラ」の運営、また映像授業コンテンツ「ウイングネット」による塾事業のトータルサポート等の教育事業を行っております。

「介護福祉サービス事業」においては、訪問介護事業、居宅介護支援事業、デイサービス、認知症グループホーム、小規模多機能事業、障がい者総合支援事業、介護研修事業等の様々な介護サービスを運営しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成において採用している会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は、市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	教育サービス	介護福祉 サービス	計		
売上高					
顧客との契約から 生じる収益	15,510,688	2,948,446	18,459,134	-	18,459,134
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	15,510,688	2,948,446	18,459,134	-	18,459,134
セグメント間の内部 売上高又は振替高	102,803	-	102,803	102,803	-
計	15,613,492	2,948,446	18,561,938	102,803	18,459,134
セグメント利益	683,256	235,017	918,273	-	918,273
セグメント資産	13,052,684	1,751,457	14,804,141	1,156,573	13,647,568
その他の項目					
減価償却費	474,920	70,830	545,750	-	545,750
のれんの償却額	3,504	56,670	60,174	-	60,174
減損損失	91,357	-	91,357	-	91,357
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	431,391	142,945	574,337	-	574,337

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額 1,156,573千円は、主にセグメント間の債権の相殺消去であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	教育サービス	介護福祉 サービス	計		
売上高					
顧客との契約から 生じる収益	15,614,036	3,039,393	18,653,429	-	18,653,429
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	15,614,036	3,039,393	18,653,429	-	18,653,429
セグメント間の内部 売上高又は振替高	102,486	440	102,926	102,926	-
計	15,716,522	3,039,833	18,756,355	102,926	18,653,429
セグメント利益	643,768	255,393	899,161	-	899,161
セグメント資産	12,498,500	1,626,123	14,124,624	721,784	13,402,839
その他の項目					
減価償却費	472,156	69,204	541,360	-	541,360
のれんの償却額	3,958	55,665	59,624	-	59,624
減損損失	184,562	63,074	247,637	-	247,637
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	427,435	154,040	581,476	-	581,476

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額 721,784千円は、主にセグメント間の債権の相殺消去であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）

(単位：千円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	教育サービス	介護福祉サービス	計		
当期末残高	29,782	277,934	307,717	-	307,717

(注) のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）

(単位：千円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	教育サービス	介護福祉サービス	計		
当期末残高	245	159,194	159,439	-	159,439

(注) のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY	東京都 江東区	100,000	教育サービス 事業	(所有) 35.0	業務支援 役員の兼任	資金の貸付	474,391	長期 貸付金	454,350
							貸付利息受取	11,495	未収 入金	-

(注) 1. 資金の貸付及び貸付利息受取は、運転資金の確保のために行った取引であり、貸付金利率は市場金利を勘案して合理的に決定しております。

2. 「持分法会計に関する実務指針」(移管指針第7号 2024年7月1日)第21項に基づき、株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAYに対する長期貸付金268,065千円を減額しております。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY	東京都 江東区	100,000	教育サービス 事業	(所有) 35.0	業務支援 役員の兼任	資金の貸付	421,464	長期 貸付金	396,425
							貸付利息受取	11,198	未収 入金	-

(注) 1. 資金の貸付及び貸付利息受取は、運転資金の確保のために行った取引であり、貸付金利率は市場金利を勘案して合理的に決定しております。

2. 「持分法会計に関する実務指針」(移管指針第7号 2024年7月1日)第21項に基づき、株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAYに対する長期貸付金254,241千円を減額しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社学研ホールディングス(東京証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
1株当たり純資産額	263円83銭	306円53銭
1株当たり当期純利益	35円84銭	77円27銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	317,294	628,551
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	317,294	628,551
普通株式に係る期中平均株式数(株)	8,853,257	8,134,782

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	1,274,128	1,327,337	1.42	-
1年以内に返済予定のリース債務	179,305	204,557	25.95	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	5,238,887	4,625,878	1.44	2027年～2034年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	400,220	292,930	32.91	2027年～2032年
合計	7,092,541	6,450,702		

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務及び長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	198,825	41,807	26,818	12,141
長期借入金	1,233,092	1,106,048	897,089	513,941
合計	1,431,917	1,147,855	923,907	526,082

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における半期情報等

	中間連結会計期間	当連結会計年度
売上高(千円)	9,200,939	18,653,429
税金等調整前中間(当期)純利益(千円)	1,100,575	945,586
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 (千円)	830,462	628,551
1株当たり中間(当期)純利益(円)	101.63	77.27

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1 1,929,449	1 1,803,279
売掛金	2 374,655	2 311,795
貯蔵品	380	531
前払費用	77,625	83,064
前渡金	8,203	8,203
未収入金	2 264,487	2 195,462
関係会社短期貸付金	2 1,446,669	2 1,864,364
立替金	2 1,063,186	2 500,658
その他	-	200
貸倒引当金	466,521	319,073
流動資産合計	4,698,135	4,448,484
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	3,882,894	3,951,411
減価償却累計額及び減損損失累計額	2,619,503	2,713,535
建物(純額)	1 1,263,390	1 1,237,876
構築物	231,444	202,355
減価償却累計額及び減損損失累計額	181,255	156,414
構築物(純額)	50,189	45,940
車両運搬具	28,006	27,144
減価償却累計額及び減損損失累計額	24,357	25,761
車両運搬具(純額)	3,648	1,383
工具、器具及び備品	1,084,540	1,060,213
減価償却累計額及び減損損失累計額	976,883	967,852
工具、器具及び備品(純額)	107,657	92,360
土地	1 156,432	1 156,432
リース資産	1,946,371	2,017,276
減価償却累計額及び減損損失累計額	1,495,497	1,648,485
リース資産(純額)	450,873	368,791
建設仮勘定	28,310	45,831
有形固定資産合計	2,060,502	1,948,617
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	110,930	93,198
映像授業コンテンツ	164,876	218,258
その他	41,303	49,864
無形固定資産合計	317,110	361,320

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	784,021	282,247
関係会社株式	2,010,348	1,827,434
関係会社長期貸付金	2 499,350	2 441,425
関係会社出資金	8,452	8,452
敷金及び保証金	1 1,530,060	1 1,487,441
繰延税金資産	260,466	381,246
その他	180,257	184,765
貸倒引当金	281,525	277,231
投資その他の資産合計	4,991,431	4,335,782
<b>固定資産合計</b>	<b>7,369,045</b>	<b>6,645,720</b>
<b>資産合計</b>	<b>12,067,181</b>	<b>11,094,204</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
短期借入金	2 60,566	-
1年内返済予定の長期借入金	1 1,246,972	1 1,300,181
リース債務	165,349	188,936
未払金及び未払費用	2 1,392,188	2 1,244,481
未払法人税等	6,494	40,961
賞与引当金	30,012	30,595
預り金	6,397	12,007
その他	9,642	9,046
流動負債合計	2,917,623	2,826,208
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1 5,129,614	1 4,543,761
退職給付引当金	820,623	816,287
賃借契約損失引当金	-	52,929
長期未払金	14,387	14,387
長期前受収益	114,353	78,393
リース債務	369,354	252,405
資産除去債務	179,304	171,279
長期預り保証金	3,430	4,255
固定負債合計	6,631,068	5,933,699
<b>負債合計</b>	<b>9,548,691</b>	<b>8,759,907</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,476,237	1,476,237
資本剰余金		
資本準備金	345,914	345,914
その他資本剰余金	898,513	894,176
資本剰余金合計	1,244,427	1,240,090
利益剰余金		
利益準備金	196,000	196,000
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	349,058	505,213
利益剰余金合計	545,058	701,213
自己株式	1,146,013	1,191,039
株主資本合計	2,119,709	2,226,501
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	396,609	103,898
繰延ヘッジ損益	2,170	3,897
評価・換算差額等合計	398,780	107,795
純資産合計	2,518,490	2,334,297
負債純資産合計	12,067,181	11,094,204

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年 3月 1日 至 2025年 2月 28日)	当事業年度 (自 2025年 3月 1日 至 2026年 2月 28日)
売上高	1 2,254,709	1 2,273,368
売上総利益	2,254,709	2,273,368
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	70,728	69,092
役員報酬	136,710	126,810
給料及び手当	327,718	357,863
賞与引当金繰入額	53,750	49,447
退職給付費用	19,453	15,569
福利厚生費	16,163	7,789
旅費交通費及び通信費	57,349	57,489
運搬費	21,325	20,830
事務用消耗品費	11,507	8,567
租税公課	34,120	42,563
減価償却費	485,965	489,502
法定福利費	72,536	67,059
募集費	13,780	8,879
その他の人件費	1,668	1,878
印刷費	7,921	10,034
賃借料	134,875	131,338
不動産賃借料	131,305	149,528
諸経費	1 463,525	1 527,286
販売費及び一般管理費合計	2,060,406	2,141,530
営業利益	194,303	131,837
営業外収益		
受取利息	1 20,822	1 28,418
受取配当金	21,938	15,476
雑収入	6,027	5,259
営業外収益合計	48,789	49,154
営業外費用		
支払利息	1 110,640	1 122,431
雑損失	8,497	9,698
営業外費用合計	119,137	132,129
経常利益	123,954	48,862
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1 100,303	-
投資有価証券売却益	-	2 692,750
特別利益合計	100,303	692,750

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年 3月 1日 至 2025年 2月 28日)	当事業年度 (自 2025年 3月 1日 至 2026年 2月 28日)
特別損失		
固定資産除却損	3 36,424	3 41,824
関係会社株式評価損	-	192,913
債権放棄損	-	1 229,320
その他	1 37,731	1 101,866
特別損失合計	74,155	565,925
税引前当期純利益	150,102	175,687
法人税、住民税及び事業税	181,357	67,435
法人税等調整額	3,126	5,527
法人税等合計	184,483	61,908
当期純利益	334,586	237,595

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,476,237	345,914	898,513	1,244,427	196,000	114,013	310,013
当期変動額							
剰余金の配当						99,541	99,541
当期純利益						334,586	334,586
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	235,044	235,044
当期末残高	1,476,237	345,914	898,513	1,244,427	196,000	349,058	545,058

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	255,444	2,775,234	272,056	1,302	270,754	3,045,988
当期変動額						
剰余金の配当		99,541				99,541
当期純利益		334,586				334,586
自己株式の取得	890,569	890,569				890,569
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			124,553	3,473	128,026	128,026
当期変動額合計	890,569	655,524	124,553	3,473	128,026	527,498
当期末残高	1,146,013	2,119,709	396,609	2,170	398,780	2,518,490

当事業年度（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,476,237	345,914	898,513	1,244,427	196,000	349,058	545,058
当期変動額							
剰余金の配当						81,440	81,440
当期純利益						237,595	237,595
自己株式の取得							
自己株式の処分			4,336	4,336			
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	4,336	4,336	-	156,154	156,154
当期末残高	1,476,237	345,914	894,176	1,240,090	196,000	505,213	701,213

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,146,013	2,119,709	396,609	2,170	398,780	2,518,490
当期変動額						
剰余金の配当		81,440				81,440
当期純利益		237,595				237,595
自己株式の取得	90,200	90,200				90,200
自己株式の処分	45,173	40,837				40,837
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			292,711	1,726	290,984	290,984
当期変動額合計	45,026	106,791	292,711	1,726	290,984	184,192
当期末残高	1,191,039	2,226,501	103,898	3,897	107,795	2,334,297

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(1) 貯蔵品

最終仕入原価法

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。但し、1998年4月1日以後取得の建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以後取得の建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～60年

構築物 10～20年

車両運搬具 2～4年

工具、器具及び備品 3～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法、映像授業コンテンツについては、見積サービス提供期間(5年以内)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### 4．引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収の可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づく当事業年度負担額を計上しております。

##### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

###### 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

###### 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（14年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

###### 簡便法の採用

当社の一部の退職給付制度は、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

##### (4) 賃借契約損失引当金

不動産賃借契約の解約不能期間において発生すると見込まれる損失に備えて、契約期間満了まで活用ができない可能性が高いと判断した部分の賃借料相当の見積額を計上しています。

#### 5．収益及び費用の計上基準

純粋持ち株会社である当社の主な収益は、子会社から受け取る経営指導料、固定資産賃貸収入、受取配当金であります。

経営指導料は、子会社との契約内容に応じた役務を提供することが履行義務であり、業務が実施された時点で履行義務が充足されることから、当該時点で収益を認識しております。固定資産賃貸収入は、主に子会社との契約に基づき、固定資産の賃貸を行うことが履行義務であり、履行義務の充足に従い一定期間にわたり収益を認識しております。受取配当金は、配当金の効力発生日をもって収益を認識しております。

## 6．ヘッジ会計の方法

### (1) ヘッジ会計の方法

主として繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を行っております。

### (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段) 金利スワップ

(ヘッジ対象) 借入金の利息

### (3) ヘッジ方針

当社は借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。

### (4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象の対応関係を確認することにより、有効性を評価しております。

ただし、金利スワップについては、特例処理の要件に該当すると判定される場合には、有効性の判定は省略しております。

## 7．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

### (2) 関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続

譲渡制限付株式報酬制度

当社の譲渡制限付株式報酬制度に基づき、当社の取締役及び当社の監査役に支給した報酬等については、対象勤務期間にわたって費用処理しております。

(重要な会計上の見積り)

1. 繰延税金資産

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した額

前事業年度末の貸借対照表において、繰延税金資産260,466千円を計上しております。  
当事業年度末の貸借対照表において、繰延税金資産381,246千円を計上しております。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報につきましては、連結財務諸表「注記事項(重要な会計上の見積り)3. 繰延税金資産」をご参照ください。

2. 関係会社投融資

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した額

(千円)

	前事業年度	当事業年度
関係会社短期貸付金	1,446,669	1,864,364
関係会社株式	2,010,348	1,827,434
関係会社長期貸付金	499,350	441,425
関係会社株式評価損	-	192,913

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

市場価格のない関係会社株式は、取得価額により評価しておりますが、当該株式の発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下した場合には、相当の減額処理を行っております。ただし、実質価額が著しく低下した場合であっても将来事業計画等により純資産の回復可能性が十分にあると認められる場合には減額処理を行わないこととしております。

関係会社株式の取得価額には、超過収益力を評価した部分を多額に含んでいるものも存在するため、実質価額の検討に当たっては、取得時に策定された投資先の事業計画の達成状況や将来の業績見通し等を総合的に勘案し、超過収益力の毀損の有無を判断しております。当事業年度においては、介護福祉サービス事業の関係会社株式について、のれんの減損損失を計上し、超過収益力が毀損したと判断したことから、減損損失を計上しております。

また、関係会社貸付金(短期・長期含む)は、各関係会社の財政状態を勘案し、個別に回収可能性を見積もったうえで回収不能見込額につきましては貸倒引当金を計上しております。

各関係会社の将来の事業計画は、教室サービス事業においては在籍生徒数の推移などから、介護福祉サービス事業においては施設利用者数の推移などから算定された将来の売上予測を基礎としており、今後の市場の動向や会社が実施予定の施策により大きく影響を受ける可能性があり、不確実性を伴うものであります。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分に関する改正については、2022年改正会計基準第20 - 3項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による財務諸表への影響はありません。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、独立掲記しておりました「特別損失」の「貸倒引当金繰入額」は金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替を行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「特別損失」の「貸倒引当金繰入額」に表示していた37,731千円は、「その他」37,731千円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産及び担保付債務

(担保に供している資産)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
現金及び預金	50,000千円	50,000千円
建物	115,941	112,168
土地	156,432	156,432
敷金及び保証金	-	61,654
合計	322,374	380,255

(上記に対応する債務)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
1年内返済予定の長期借入金	29,988千円	880,329千円
長期借入金	20,945	2,958,042
合計	50,933	3,838,371

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
短期金銭債権	2,678,117千円	2,708,503千円
長期金銭債権	499,350	441,425
短期金銭債務	1,272,818	1,074,404

## (損益計算書関係)

## 1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当事業年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
営業取引による取引高	2,181,318千円	2,477,896千円
営業取引以外の取引による取引高	20,678	25,339
貸倒引当金繰入額	37,731	38,937
貸倒引当金戻入額	100,303	-
債権放棄損	-	229,320

## 2 投資有価証券売却益

前事業年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

当事業年度において、当社の保有する政策保有株式1銘柄について、公開買付けに応募したことに伴い投資有価証券売却益を計上しております。

## 3 固定資産除却損の内訳

	前事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当事業年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
建物	32,704千円	38,836千円
構築物	823	1,142
工具、器具及び備品	1,727	2,574
取壊撤去費用	1,168	729

## (有価証券関係)

前事業年度(2025年2月28日)

子会社株式(貸借対照表計上額 1,917,521千円)で市場価格のない株式等以外のものではありません。

関連会社株式(貸借対照表計上額 92,827千円)で市場価格のない株式等以外のものではありません。

当事業年度(2026年2月28日)

子会社株式(貸借対照表計上額 1,774,607千円)で市場価格のない株式等以外のものではありません。

関連会社株式(貸借対照表計上額 52,827千円)で市場価格のない株式等以外のものではありません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
	(千円)	(千円)
繰延税金資産		
退職給付引当金	249,957	255,221
減損損失	384,885	395,543
賞与引当金	9,141	9,319
税務上の繰越欠損金	624,134	482,787
その他	588,375	568,631
繰延税金資産小計	1,856,495	1,711,503
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	427,918	292,776
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	981,801	978,744
評価性引当額小計	1,409,719	1,271,520
繰延税金資産合計	446,775	439,982
繰延税金負債		
投資有価証券評価差額	172,633	46,325
資産除去債務	13,676	12,411
繰延税金負債合計	186,309	58,736
繰延税金資産(負債)の純額	260,466	381,246

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
法定実効税率 (調整)	30.46%	30.46
交際費等永久に損金に導入されない項目	61.68	76.11
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	112.50	85.49
住民税等均等割	2.16	2.58
評価性引当額の増減	92.07	88.94
貸倒引当金	7.66	6.75
関係会社株式評価損	-	33.45
その他	4.98	3.34
税効果会計適用後の法人税等の負担率	122.91	35.24

3．法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しており、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

4．法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（令和7年法律第13号）が2025年3月31日に国会で成立し、2026年4月1日以後開始する事業年度より「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2027年3月1日以後開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債を計算する法定実効税率は30.46%から31.36%に変更されます。

なお、この税率変更による影響額は軽微であります。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「注記事項（重要な会計方針）5．収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	当期末減価償却累計額又は償却累計額	当期償却額	差引当期末残高
有形固定資産	建物	3,818,688	193,915	125,397	3,887,205	2,649,329	178,992	1,237,876
	構築物	222,381	1,206	30,295	193,291	147,351	4,312	45,940
	車両運搬具	28,006	-	861	27,144	25,761	2,265	1,383
	工具、器具及び備品	1,063,623	35,182	59,510	1,039,296	946,935	47,904	92,360
	土地	156,432	-	-	156,432	-	-	156,432
	リース資産	1,938,781	75,248	4,343	2,009,687	1,640,895	123,084	368,791
	建設仮勘定	28,310	73,694	56,173	45,831	-	-	45,831
	有形固定資産計	7,256,223	379,248	276,582	7,358,889	5,410,272	356,559	1,948,617
無形固定資産	ソフトウェア	809,117	31,690	-	840,807	747,608	49,421	93,198
	映像授業コンテンツ	1,069,821	136,902	-	1,206,724	988,466	83,521	218,258
	その他	43,416	37,266	28,706	51,976	2,112	-	49,864
	無形固定資産計	1,922,354	205,859	28,706	2,099,507	1,738,186	132,943	361,320

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

(有形固定資産)

建物	茨城県つくば市	25,137千円
	東京都江東区	15,901千円
	東京都中野区	11,358千円

(無形固定資産)

映像授業コンテンツ	高校生用映像授業コンテンツ	136,902千円
-----------	---------------	-----------

(注) 2. 当期首残高及び当期末残高は、取得原価により記載しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	30,012	55,045	54,462	30,595
貸倒引当金	748,047	68,476	220,219	596,304
賃借契約損失引当金	-	52,929	-	52,929

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	8月末日・2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告は電子公告の方法により行う。但し、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利及び株主の有する株式数に応じて募集株式又は募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに有価証券報告書の確認書  
事業年度 第51期（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）2025年5月29日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類  
事業年度 第51期（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）2025年5月29日関東財務局長に提出
- (3) 半期報告書及び確認書  
第52期中（自 2025年3月1日 至 2025年8月31日）2025年10月10日関東財務局長に提出
- (4) 臨時報告書  
金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書を2025年5月30日に関東財務局長に提出
- (5) 自己株券買付状況報告書  
2025年11月6日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2026年 5月27日

株式会社市進ホールディングス  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 本 間 洋 一

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 川 資 樹

### < 連結財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社市進ホールディングスの2025年3月1日から2026年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社市進ホールディングス及び連結子会社の2026年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

繰延税金資産の回収可能性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社グループは、当連結会計年度末時点において、連結貸借対照表に繰延税金資産を721,767千円（純資産の28.6%に相当）計上しており、このうち、税務上の繰越欠損金に対する繰延税金資産は219,419千円である。</p> <p>会社グループは、連結財務諸表注記（重要な会計上の見積り）に記載されているとおり、将来の一時差異等加減算前課税所得を見積り、当連結会計年度末時点で存在する将来減算一時差異及び税務上の繰越欠損金に対して、会社グループのビジネスモデル及び事業計画の作成年数を考慮し、スケジューリング可能な範囲内で、繰延税金資産を計上している。</p> <p>将来の一時差異等加減算前課税所得及びその発生時期の見積りは、経営者が作成した事業計画を基礎としている。当該事業計画における主要な仮定は、教育サービス事業においては在籍生徒数の推移、介護福祉サービス事業においては施設利用者数の推移等から算定された将来の売上予測である。</p> <p>将来の事業計画における仮定は、経営者による判断が必要となり、経営環境の変化による不確実性を伴うものである。</p> <p>以上のことから、当監査法人は繰延税金資産の回収可能性を監査上の主要な検討事項と判断した。</p>	<p>当監査法人は、繰延税金資産の回収可能性の検討に当たり、主に以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰延税金資産の回収可能性の判断に関連する内部統制の整備状況及び運用状況を評価した。</li> <li>・ 過年度の事業計画と当連結会計年度の実績を比較することにより、経営者による見積りの精度を評価した。</li> <li>・ 繰延税金資産の回収可能性の判断に用いられた将来の一時差異等加減算前課税所得の見積りの基礎となる事業計画の合理性について検討するため、以下の手続を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 繰延税金資産の回収可能性の検討に当たり利用した最新の事業計画が取締役会で承認されていることを確かめた。</li> <li>- 外部機関が公表している市場データを入手し、直近の経営環境が最新の事業計画に反映されていることを確かめた。</li> <li>- 将来の事業計画における仮定に関して、会社の予測の根拠を経営者に対して質問したうえで、関連資料を閲覧し、当該予測の合理性を検討した。</li> <li>- 教育サービス事業における重要な会社について、翌連結会計年度の3月の立ち上がりにおける在籍生徒数の実績を入手し、事業計画との整合性を確かめた。</li> <li>- 介護福祉サービス事業における重要な会社について、施設利用者数の過去実績からの趨勢分析を実施し、将来の売上予測の見積りの合理性を評価した。</li> <li>- 経営者等への質問や経営会議議事録の閲覧により、人手不足やコスト上昇等の外部環境のリスクが計画に適切に反映されているかを評価した。</li> </ul> </li> </ul>

のれんの評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社グループは、当連結会計年度末時点において、連結財務諸表注記（重要な会計上の見積り）に記載されているとおり、連結貸借対照表にのれんを159,439千円計上している。</p> <p>会社グループは、当連結会計年度において回収可能性を判断した結果、教育サービス事業では25,578千円を、介護福祉サービス事業では63,074千円を減損損失として計上しており、その他の資産グループにおいては、営業活動から生ずる損益又はキャッシュ・フローの継続的なマイナス、回収可能価額を著しく低下させる変化もしくは経営環境の著しい悪化等の事象は識別されず、減損の兆候はないと判断している。</p> <p>会社グループは、のれんを含む資産グループに減損の兆候があると認められる場合には、資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識の要否を判定している。</p> <p>のれんの評価は、資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの見積りに大きく依存し、その見積りは経営者が策定した事業計画の主要な仮定に基づいている。</p> <p>当該事業計画における主要な仮定は、教育サービス事業においては在籍生徒数の推移、介護福祉サービス事業においては施設利用者数の推移等から算定された将来の売上予測である。</p> <p>将来の事業計画における仮定は、経営者による判断が必要となり、経営環境の変化による不確実性を伴うものである。</p> <p>以上のことから、当監査法人はのれんの評価を監査上の主要な検討事項と判断した。</p>	<p>当監査法人は、のれんの評価の検討に当たり、主に以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ のれんの評価に関連する内部統制の整備状況及び運用状況を評価した。</li> <li>・ のれんを含む資産グループの減損の兆候の把握に関する経営者の判断を評価するため、対象会社の取得時点における事業計画の達成状況を確認するとともに、経営環境の著しい悪化等の減損の兆候に該当する事象の有無について、取締役会議事録や稟議書の閲覧、経営者への質問を実施し確かめた。</li> <li>・ 過年度の事業計画と当連結会計年度の実績を比較することにより、経営者による見積りの不確実性を評価した。</li> <li>・ のれんの評価の検討に当たり利用した最新の事業計画が取締役会で承認されていることを確かめた。</li> <li>・ 減損の兆候があると認められた事業について、以下の手続を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 将来の事業計画における仮定に関して、会社の予測の根拠を経営者に対して質問したうえで、関連資料を閲覧し、当該予測の合理性を検討した。</li> <li>- 教育サービス事業について、翌連結会計年度の3月の立ち上がりにおける在籍生徒数の実績を入手し、事業計画との整合性を確かめた。</li> <li>- 介護福祉サービス事業について、施設利用者数の過去実績からの趨勢分析を実施し、将来の売上予測の見積りの合理性を評価した。</li> <li>- 減損損失の認識の要否を判定するため、割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額の比較を行い、会社の判断の妥当性を検討した。</li> </ul> </li> </ul>

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 内部統制監査 >

##### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社市進ホールディングスの2026年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社市進ホールディングスが2026年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### < 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書

2026年5月27日

株式会社市進ホールディングス  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 本 間 洋 一

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 川 資 樹

### <財務諸表監査>

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社市進ホールディングスの2025年3月1日から2026年2月28日までの第52期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社市進ホールディングスの2026年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

繰延税金資産の回収可能性
--------------

連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項(繰延税金資産の回収可能性)と同一内容であるため、記載を省略している。
--

関係会社株式の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社は、当事業年度末時点において、財務諸表注記（重要な会計上の見積り）に記載されているとおり、貸借対照表価額に関係会社株式1,827,434千円を計上しており、当事業年度において損益計算書に関係会社株式評価損192,913千円を計上している。</p> <p>市場価格のない関係会社株式は、取得原価をもって貸借対照表価額とするが、当該株式の発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときは、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除いて、帳簿価額を実質価額まで減額し、当該減少額は当期の損失として処理される。関係会社株式の取得価額には、超過収益力を評価した部分を多額に含んでいるものも存在するため、実質価額の検討に当たっては、超過収益力の毀損の有無の判断が重要となる。</p> <p>会社は、超過収益力の毀損の有無を判断する際には、取得時に策定された投資先の事業計画の達成状況や将来の業績見通し等を総合的に勘案して検討している。当該事業計画における主要な仮定は、教育サービス事業においては在籍生徒数の推移、介護福祉サービス事業においては施設利用者数の推移等から算定された将来の売上予測である。</p> <p>将来の事業計画における仮定は、経営者による判断が必要となり、経営環境の変化による不確実性を伴うものである。</p> <p>以上のことから、当監査法人は関係会社株式の評価を監査上の主要な検討事項と判断した。</p>	<p>当監査法人は、関係会社株式の評価の検討に当たり、主に以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係会社株式の評価に関連する内部統制の整備状況及び運用状況を評価した。</li> <li>関係会社株式の実質価額に反映された超過収益力の評価について、当監査法人は、連結財務諸表に係る監査報告書の監査上の主要な検討事項「のれんの評価」に記載の監査上の対応を実施した。</li> </ul>

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

### <報酬関連情報>

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。